

# 視線入力オプション取扱説明書

株式会社 日立ケーイーシステムズ

## ■はじめに

---

視線入力オプションを使用する場合は、トビーPCEye Mini の「ユーザーマニュアル」の「1.はじめに」、「2.セーフティ」を守っていただき、正しくご使用ください。

また「伝の心」の操作に関しては「伝の心取扱説明書-簡易版-」や電子マニュアル「伝の心」取扱説明書」もご参照ください。

## 重要なお知らせ

### ■ 保証について

「伝の心」の無償保証期間は、本システム装置に同梱されている保証書に記載されている期間とします。

オプションに関してはオプション品に同梱されている保証書に記載されている期間とします。

故障が発生した場合は、販売会社へご連絡ください。

なお、つぎに該当する場合は、保証の範囲から除外させていただきます。

- お客様の不適切な取扱い、使用による場合。
- 故障の原因が納入品以外の事由による場合。
- 納入者以外の改造または修理による場合。
- その他、天災、災害など納入者の責にあらざる場合。

ここで言う保証は納入品単体を意味するもので、納入品の故障により誘発される損害はご容赦いただきます。また、保証は日本国内においてのみ有効です。(Effective only Japan)

### ■ お断り

●本書の内容の一部または全部を、無断で転載あるいは引用する事を禁止します。

●本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

●本書の記述内容について万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。

●本製品(オプション品)を運用した結果については前項にかかわらず責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

●本製品(オプション品)は日本国内のみに使用してください。(For Japanese Domestic Use Only)

### ■ 商標と技術について

●「伝の心」は株式会社 日立製作所の登録商標です。

●トビーPCEye Mini は株式会社クレアクトの登録商標です。

●Microsoft、Windows は米国 Microsoft 社の登録商標です。

●その他、本書に記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

## ■動作環境

---

対象機器	トビーPCEye Mini
対応アプリケーション	伝の心 Ver.06-10 以降
OS	Windows 10
USB	2.0 以上

### ■ 制限事項

「伝の心」や tobiit アイトラッキングツールから起動するキャリブレーション画面、またはキャリブレーション画面より実行するキャリブレーションは、CPU 負荷が非常に高くなるため、OS の状態によっては視線制御ソフトが停止してしまうことがあります。視線制御ソフトが停止した場合は、57 ページの「キャリブレーションを行ったら、動作不能になった」を参照ください

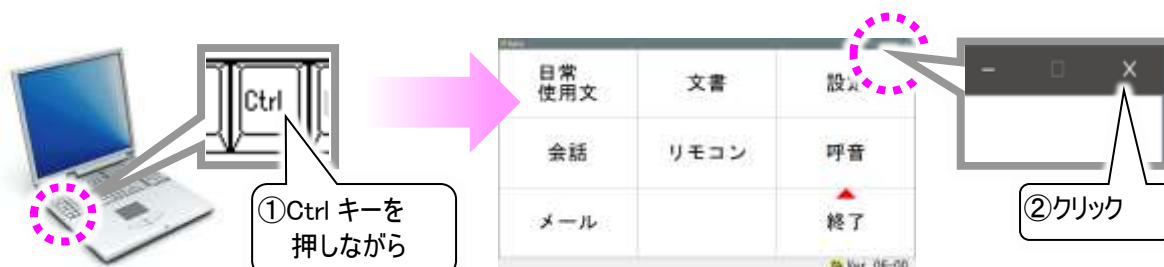
## 視線入力オプションのセットアップ

---

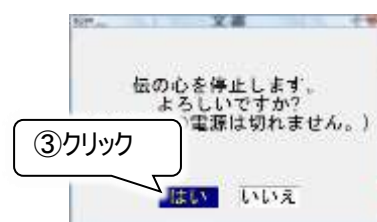
## ■はじめて使う時の準備

### 伝の心を停止します

- (1) 「伝の心」のメインメニューを表示します。
- (2) キーボード左側にある「Ctrl」キーを押したまま、「伝の心」トップ画面の右上 × ボタンをマウスでクリックしてください。



- (3) 右記のメッセージが表示されるので、「Ctrl」キーの押下を止め、「はい」を選択してください。「伝の心」が終了して、デスクトップ画面が表示されます。



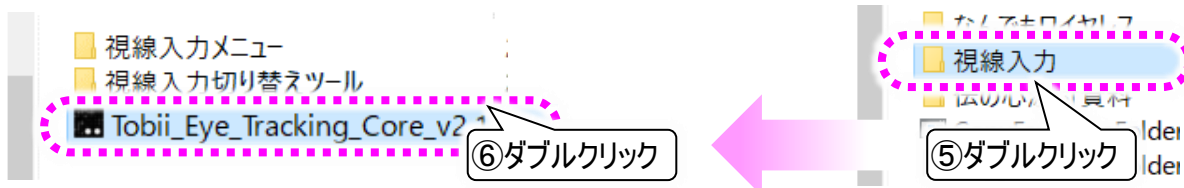
### コアソフトウェアのインストール

※「伝の心」ではここで説明するコアソフトを使用します。トビーPCEye Mini に付属のソフトウェアはインストールしないでください。ここでインストールするコアソフトが動作しなくなります。

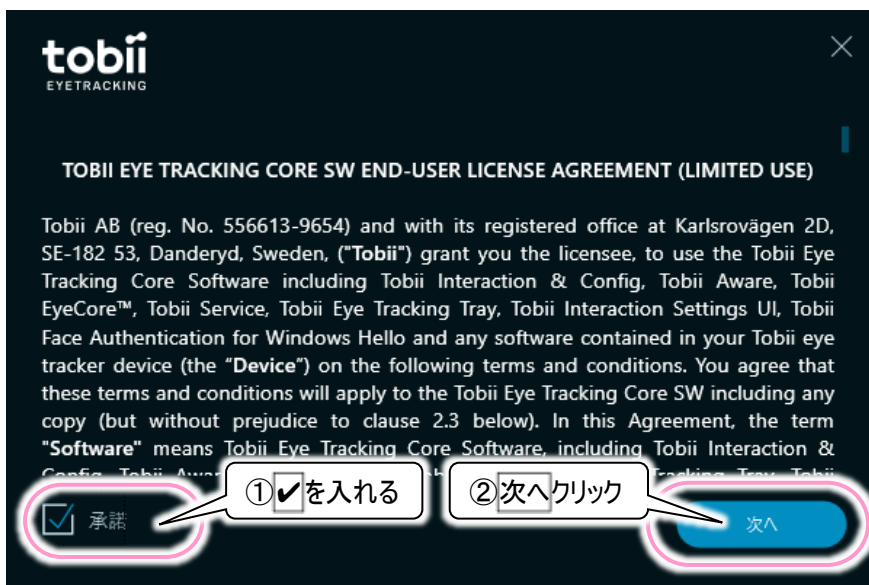
- (1) デスクトップ画面から [スタート] ⇒ [エクスプローラー] の順にマウスでクリックします。次に [ローカルディスク (C:)] ⇒ [DENTOOL] ⇒ [視線入力] の順にダブルクリックしていきます。



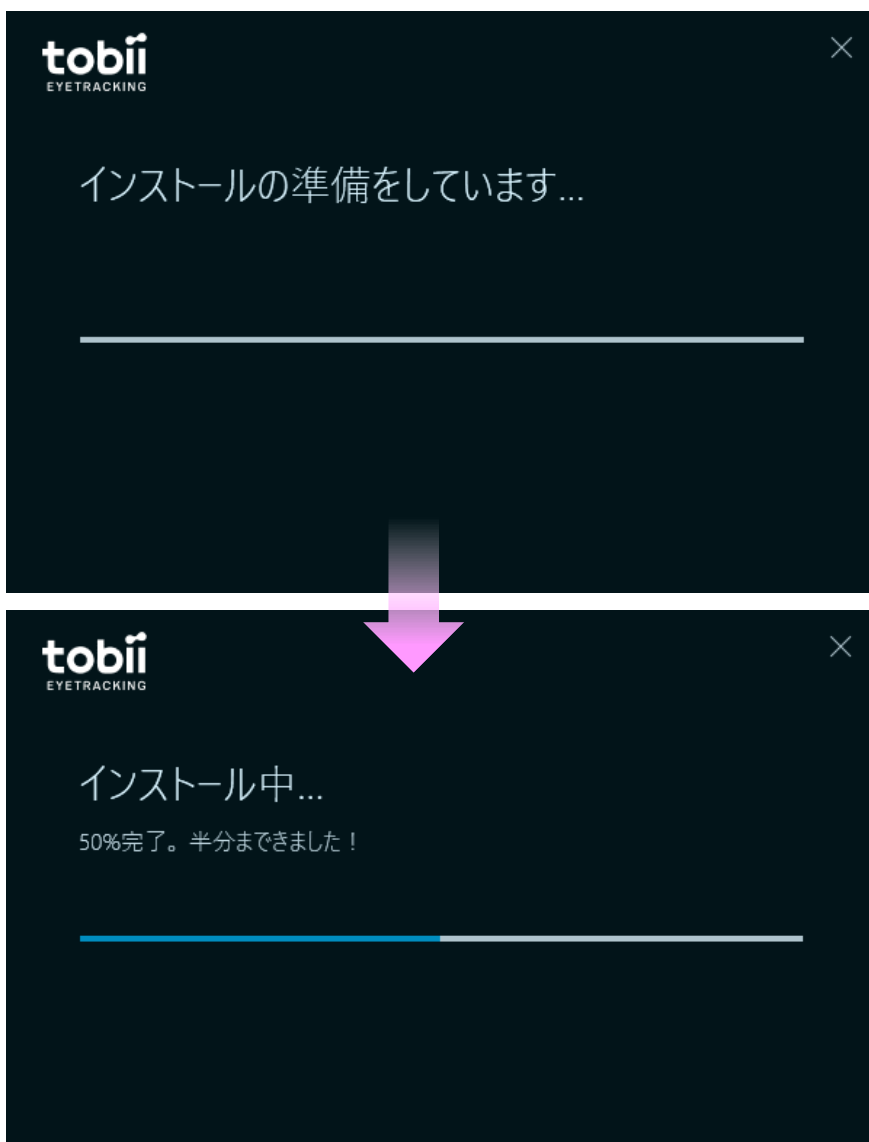
- (2) [視線入力]フォルダーの「Tobii\_Eye\_Tracking\_Core...」をマウスでダブルクリックします。



- (3) 下記画面が表示されるので、ライセンス契約を確認し、「承諾」にチェック☑を入れて「次へ」ボタンをクリックします。



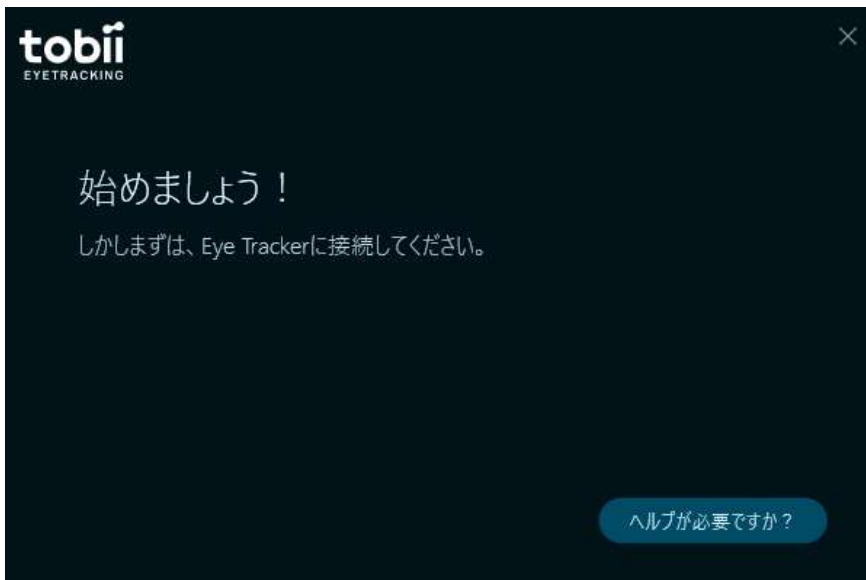
- (4) 下記画面が表示されインストールが開始されますので、しばらく待ちます。



(5) 下記画面が表示されたら、インストール完了です。**続ける**ボタンをクリックします。

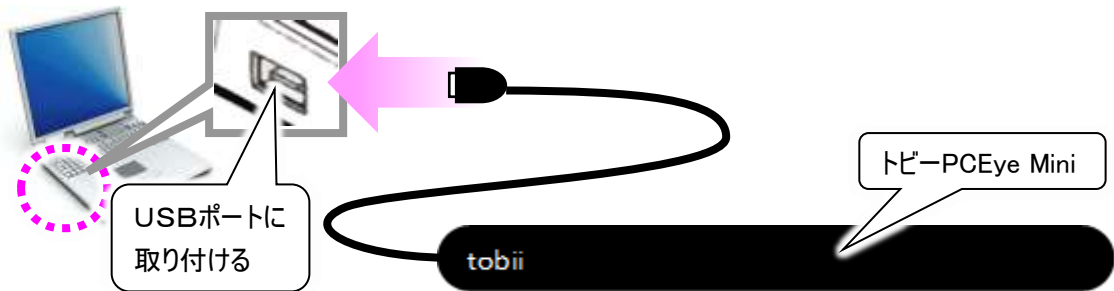


(6) 下記画面が表示されるので、7 ページの「トビーPCEye Mini の設置を行います」に進みます。

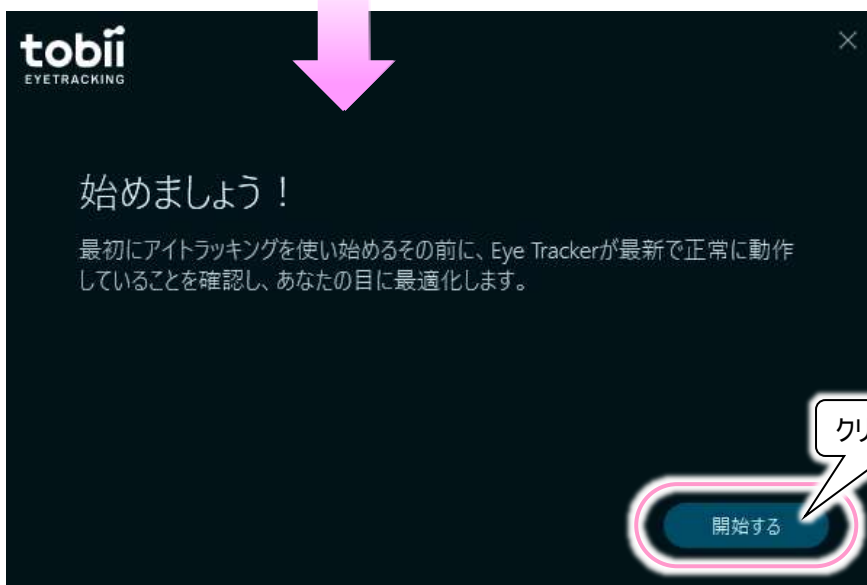
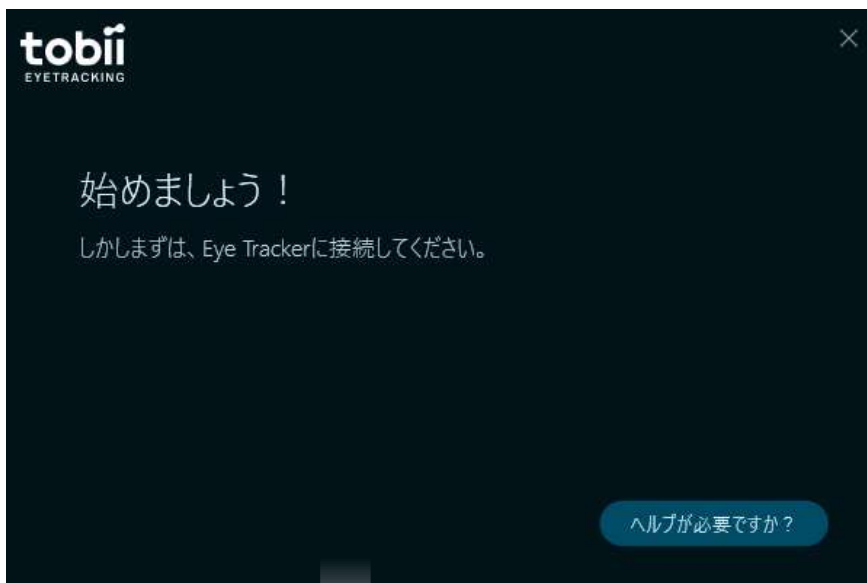


## トビーPCEye Mini の設置を行います

- (1) トビーPCEye Mini 本体を「伝の心」のUSBポートに取り付けます。  
※本体貼り付け用の金具は、まだ取り付けないでください。



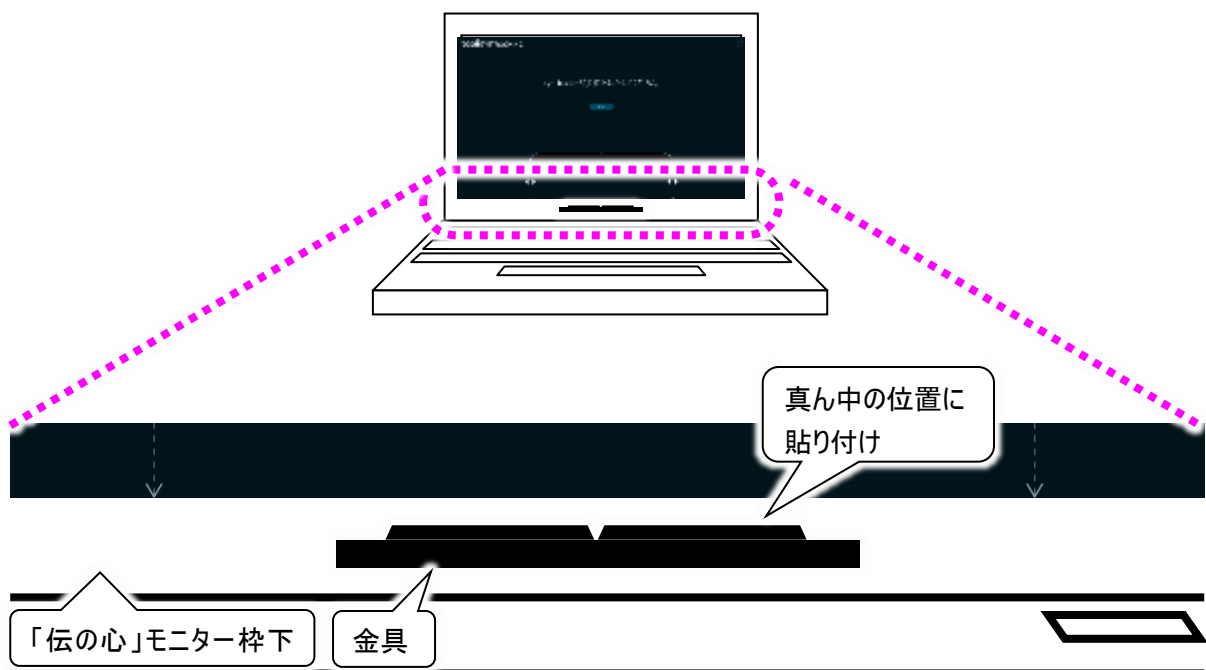
- (2) トビーPCEye Mini 本体を「伝の心」のUSBポートに取り付けると、下記画面の表示が変化します。  
開始するボタンをクリックしてください。



- (3) 「伝の心」画面全体にディスプレイ設定画面が表示されるので、まず金具を「伝の心」モニター枠下部に貼り付けます。  
※金具はトビーPCEye Miniのパッケージに同梱されています。

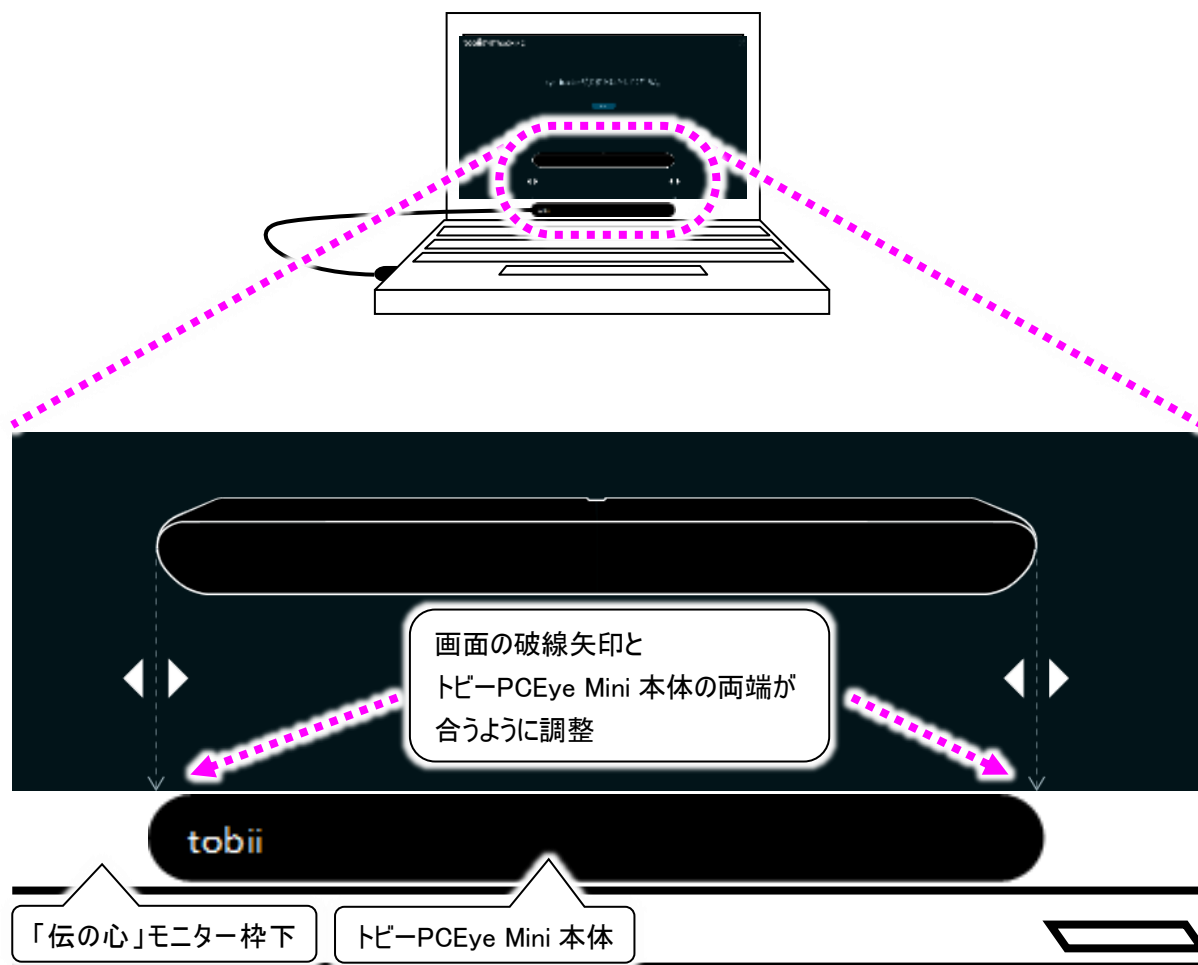


- (4) 金具は「伝の心」モニター枠下部の中央辺りに貼り付けます。





- (5) 金具を貼り付けたら、トビーPCEye Mini 本体を設置します。  
(本体の裏は磁石が付いていますので、トビーPCEye Mini 本体を置くだけで張り付きます。)



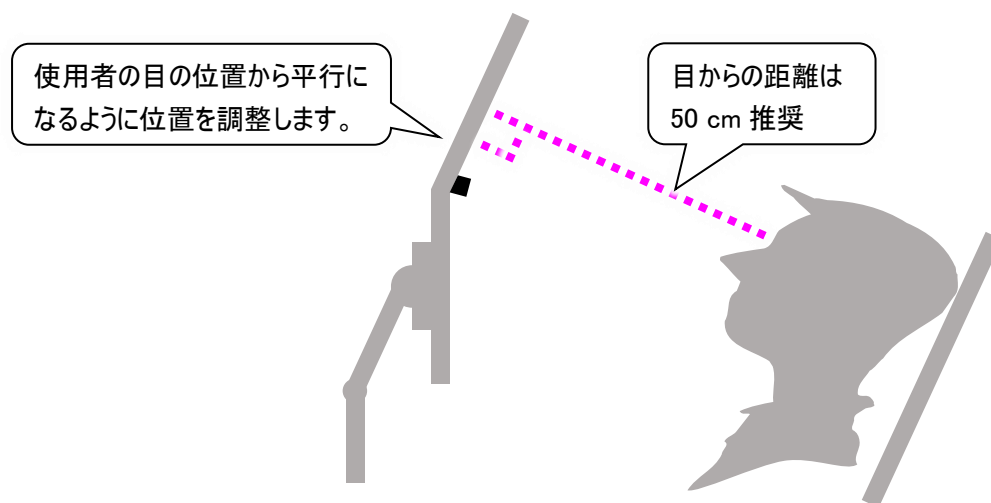
表示のガイドの破線矢印にマウスカーソルを合わせて、トビーPCEye Mini 本体の両端に位置に破線矢印が合うように調整しましょう。



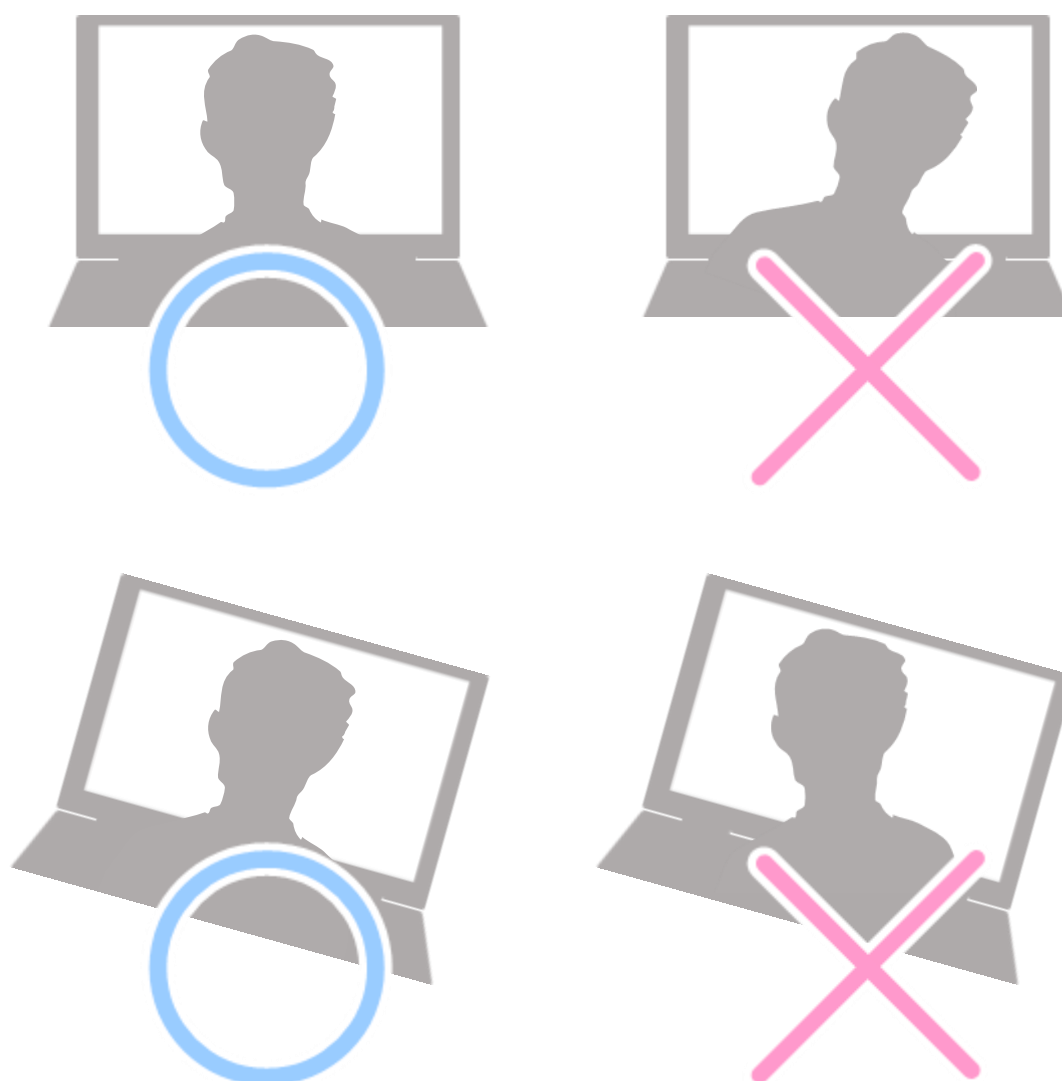
- (6) 引き続いて、10 ページの「トビーPCEye Miniと使用者の位置を調整します」に進みます。  
※ディスプレイ設定画面はまだ閉じないでください。

## トビーPCEye Mini と使用者の位置を調整します

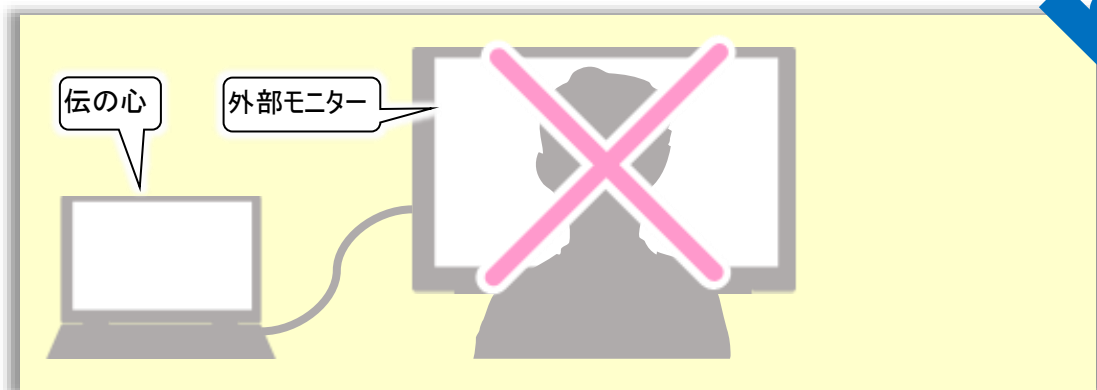
- (1) 「伝の心」のモニターと使用者の目との距離は、使用者の目の位置から平行に、45～85 cm の範囲で調整してください。(50cm を推奨します)  
※モニターの中を少し見下ろす程度の位置で距離を調整すると、目の疲れが軽減されます。



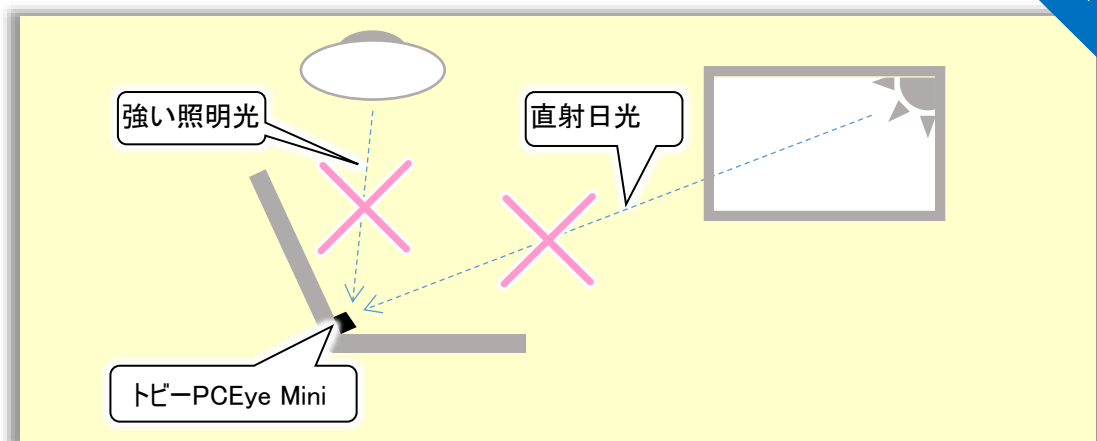
- (2) 顔が「伝の心」のモニターに対して斜めに傾いている場合、モニターや頭の位置を調整してください。



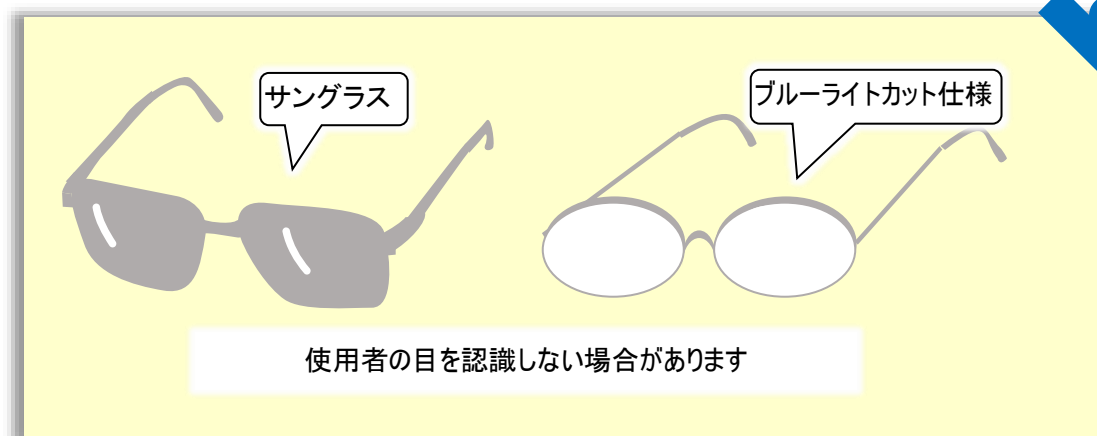
※「伝の心」に外部モニターを接続して、外部モニター側にトビーPCEye Mini 本体を設置して使用することはできません。



※トビーPCEye Mini はパルス赤外光を使用します。直射日光や強い照明の元では正常に動作しない場合があります。その場合は、日光や照明が直接トビーPCEye Mini に照射しないように設定位置を調整ください。



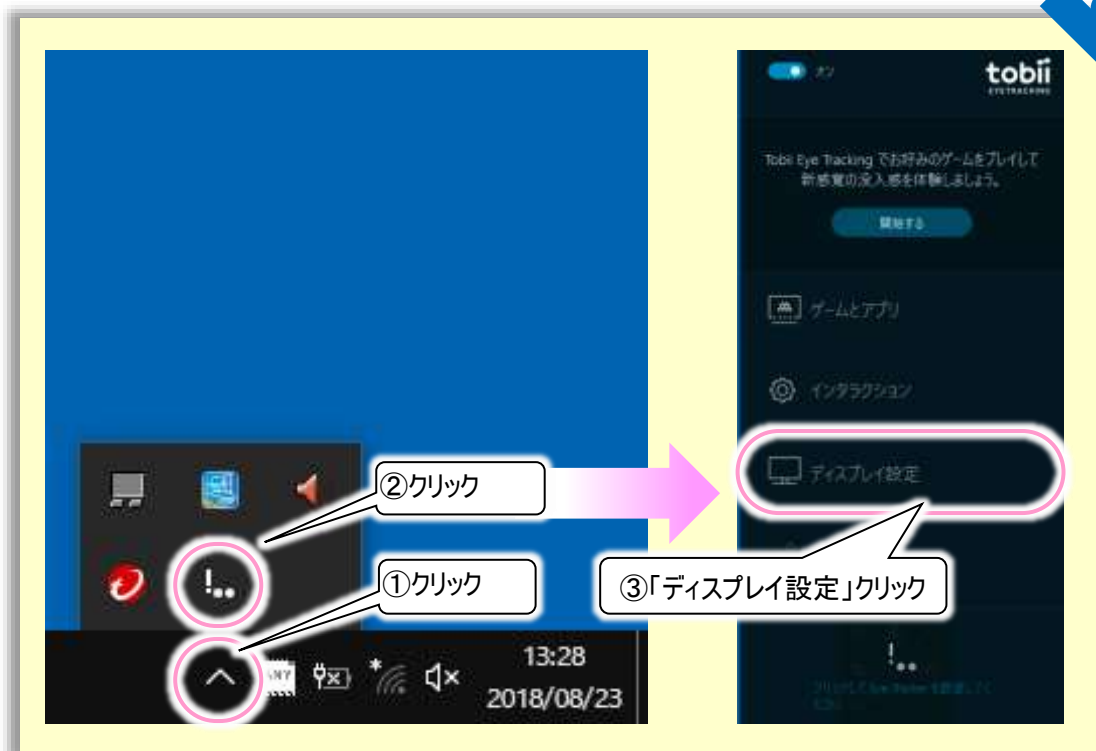
※使用者のメガネに関して、ブルーライトカット仕様のものは、使用者の目を認識しない場合があります。ご注意ください。また、サングラスに関しても同様ですので、ご注意ください。



- (3) 調整が終了したら、「伝の心」のモニターに表示中のディスプレイ設定画面の「終了」ボタンをクリックします。



※この画面は、下記のようにタスクトレイから再表示することが可能です。



- (4) 引き続きキャリブレーション(微調整)が始まりますので、13 ページの「トビーPCEye Mini の設定を行います(ユーザープロフィールの作成)」に進んでください。

## トビーPCEye Mini の設定を行います（ユーザープロフィールの作成）

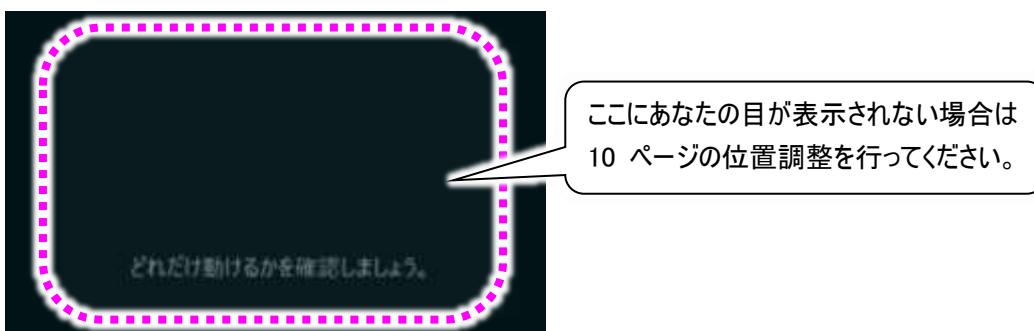
(1) 下記画面が表示されます。



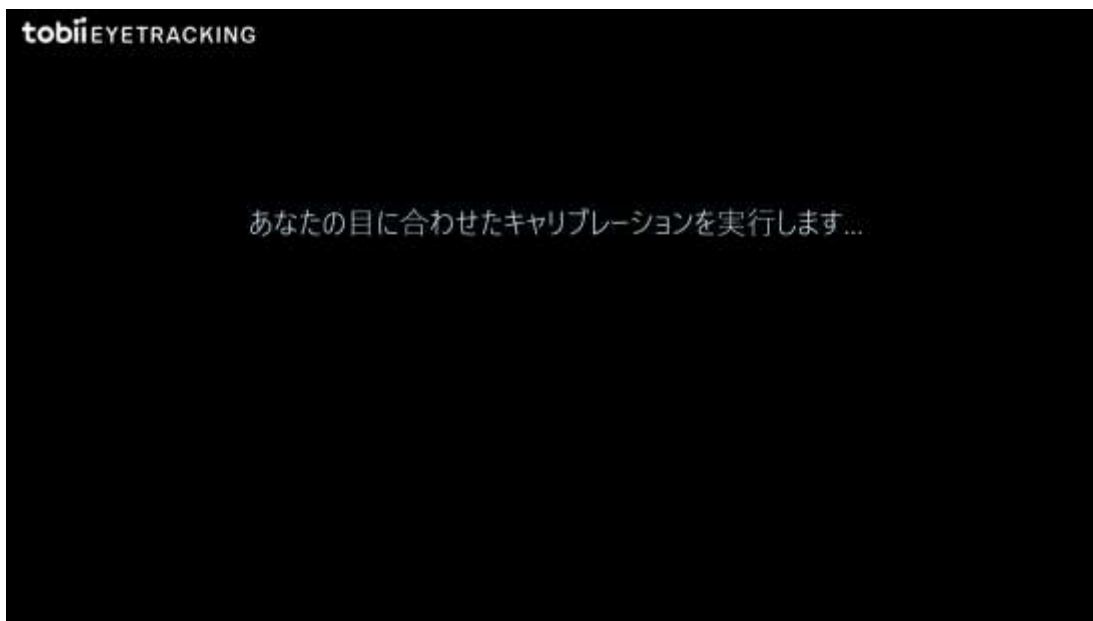
(2) 自動的に下記画面に切り替わります。



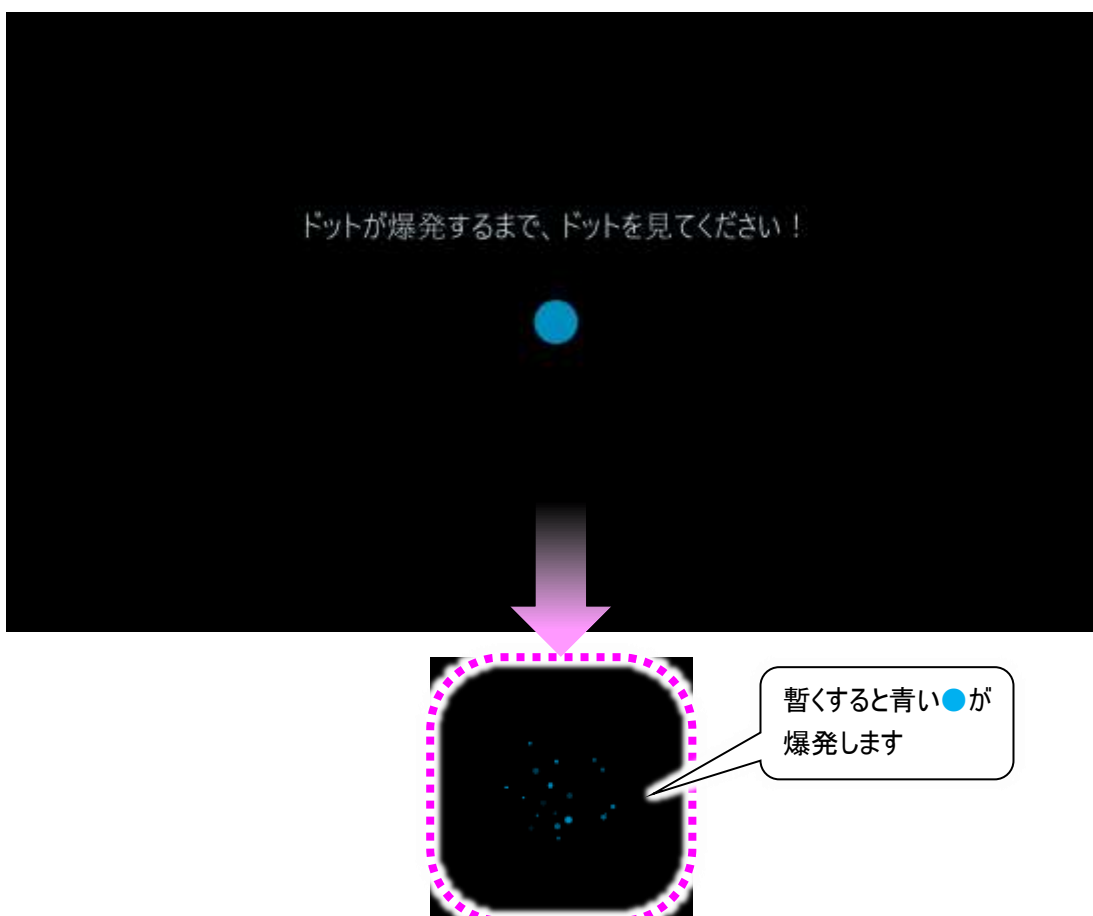
(3) 画面に目の「○」表示がない場合、10 ページの「トビーPCEye Mini と使用者の位置を調整します」を参考に、「伝の心」のモニターと使用者の位置を調整してください。



(4) 使用者の目が認識されると、下記画面に自動的に切り替わります。

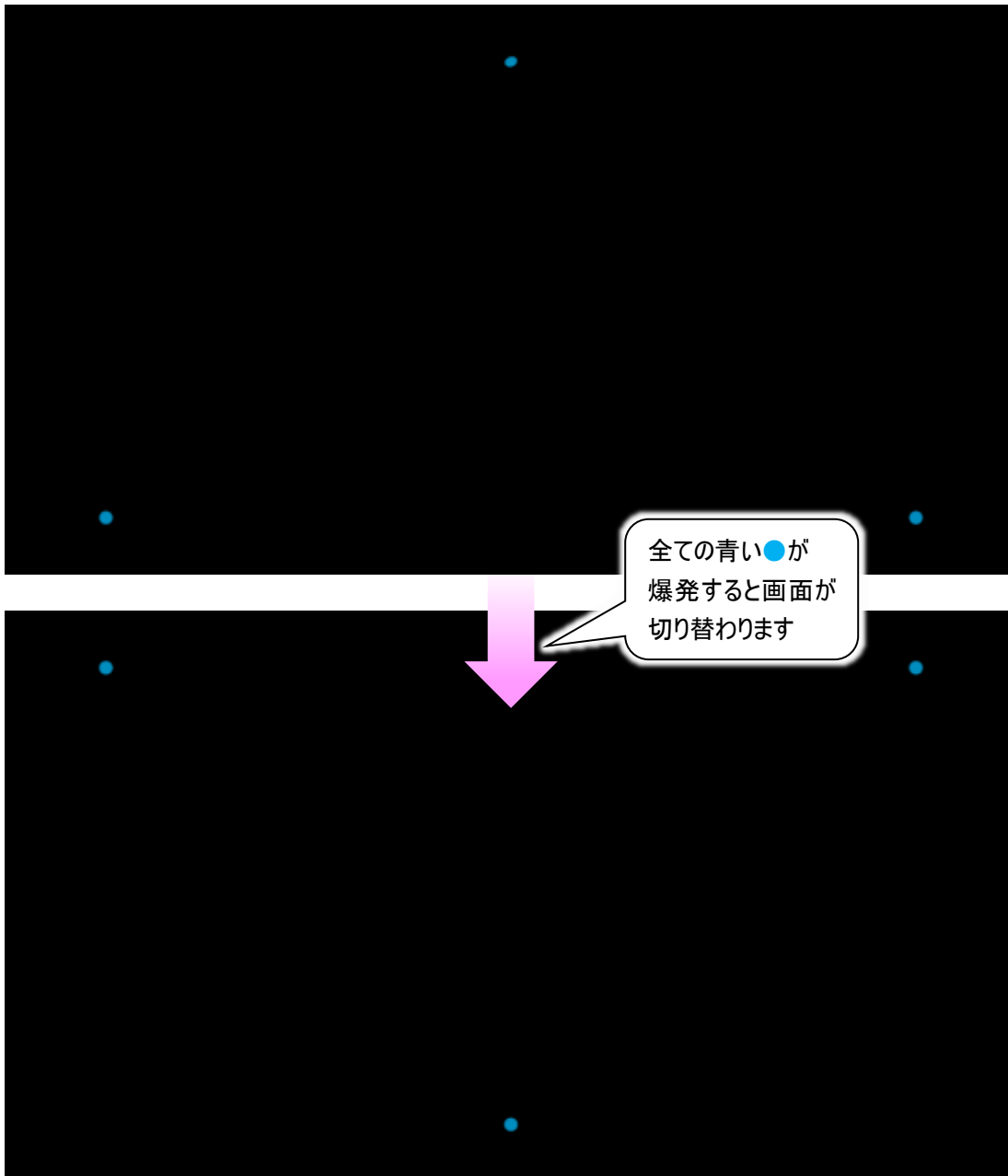


(5) 画面の中心に青い●が表示されるので、青い●を見つめます。  
※首や体を動かさず、視線だけを青い●に向けます。視線を向けるのに困難を感じるようでしたら、10ページの「トビーPCEye Miniと使用者の位置を調整します」を参考に、「伝の心」のモニターと使用者の位置を調整してください。



青い●を見つめて暫くすると、上記画面のように青い●が爆発します。

- (6) 青い●が爆発した後は、下記画面に切り替わるので、同様にして青い●を見つめます。  
※3点ある青い●は、どれから先に見つめてもよいです。  
青い●が1つ爆発したら、次の青い●を見つめます。

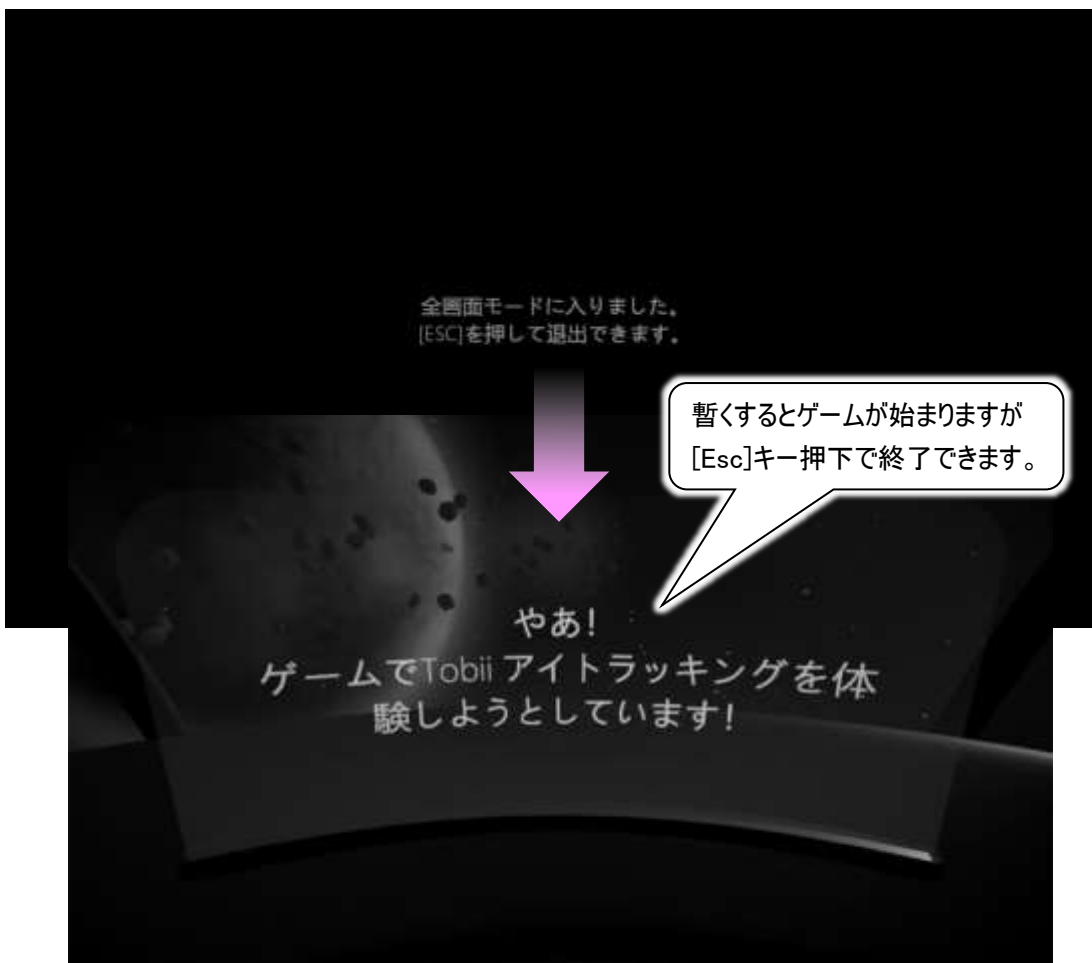


青い●3点が全て爆発し終わったら、青い●3点の表示位置の違う上記画面に切り替わるので、前画面と同様に1つずつ見つめて爆発させていきます。

- (7) 全部の青い●を爆発させると、下記画面が表示されるので、**保存**ボタンをクリックします。  
※ユーザープロフィール名が「DENUSER」で保存されます。



- (8) 下記画面に切り替わるので、キーボードより[Esc]キーを押下すると設定が終了します。  
※[Esc]キーを押下しないと、自動的にゲームが始まりますが、[Esc]キーを押下すると終了します。

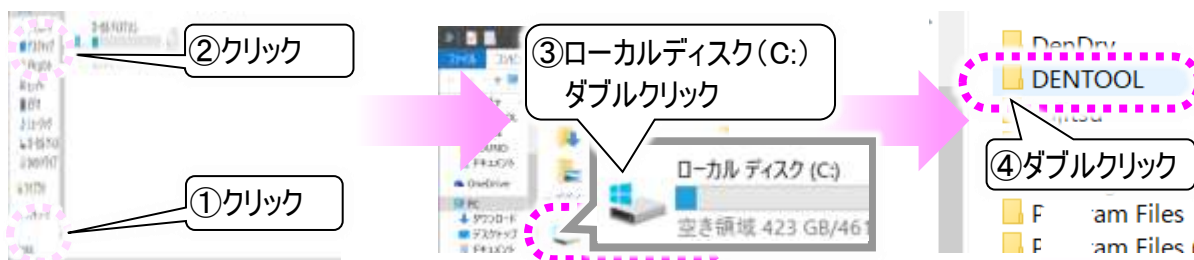


- (9) 引き続き伝の心側の設定を行いますので、17 ページの「伝の心で使用できるようにします」に進んでください。



伝の心で使用できるようにします

- (1) デスクトップ画面から [スタート] ⇒ [エクスプローラー] の順にマウスでクリックします。  
次に [ローカルディスク (C:)] ⇒ [DENTOOL] ⇒ [視線入力] の順にダブルクリックしていきます。



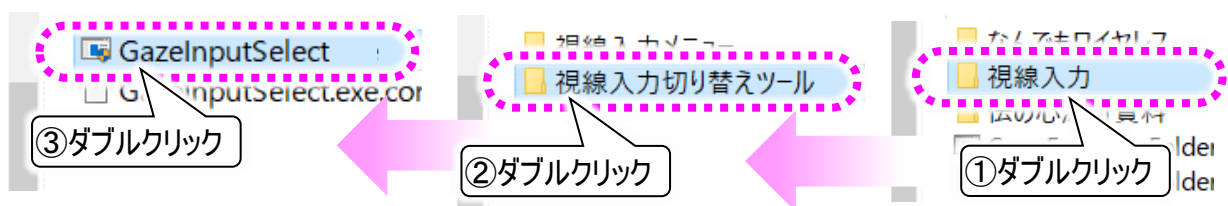
- (2) [視線入力] フォルダの「setupService」をマウスで右クリックして表示されたメニューから「管理者として実行」をマウスでクリックします。



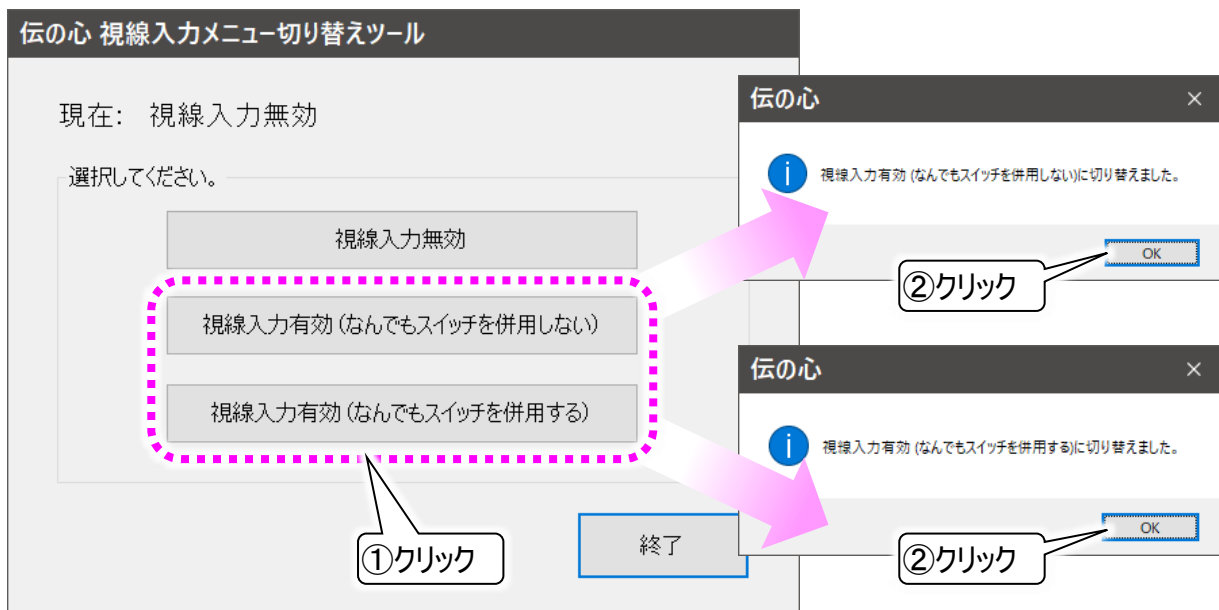
- (3) 下記画面が表示されますので、「ChangeServiceConfig SUCCESS」の表示を確認して、キーボードから「Enter」キーを押下して下記画面を閉じます。



- (4) 次に、[視線入力] フォルダより、[視線入力切り替えツール] ⇒ [GazeInputSelect.] の順にダブルクリックします。



- (5) 下記のような画面が表示されますので、視線でマウスを動かし、視線でクリック(決定)する場合は **視線入力有効(なんでもスイッチを併用しない)** ボタンを、視線でマウスを動かし、スイッチ入力でクリック(決定)する場合は **視線入力有効(なんでもスイッチを併用する)** ボタンをクリックしてください。



※なんでもスイッチを併用する場合は、2点スイッチモードでは「送りスイッチ」に指定しているポートが動作しません。視線入力を有効にする前に、「支援者用設定」で1点スイッチモードに変更するか、「送りスイッチ」に指定しているポートを使用しないようにしてください。

- (6) これで準備は完了です。  
デスクトップの「伝の心」ショートカットから「伝の心」を起動させてください。
- (7) 次回からは電源を入れるだけで視線入力オプションが使用できます。

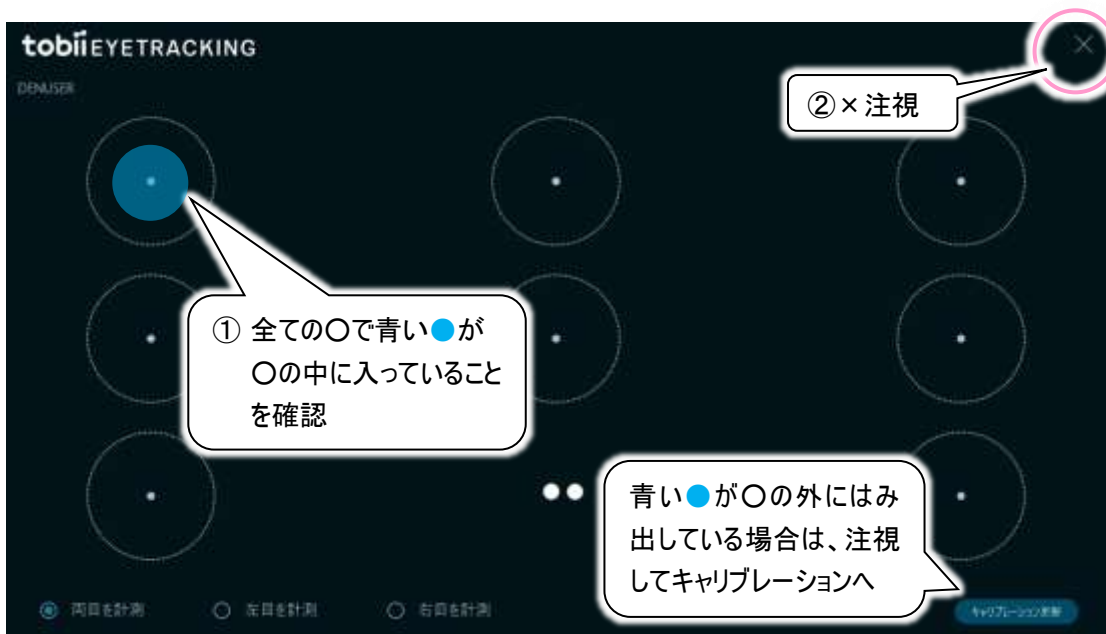
## ■ 起動と終了

### 視線入力有効時の「伝の心」の起動

- (1) 「伝の心」の取り扱い説明書を参照して、システム装置の電源ボタンを押します。
- (2) システム装置が起動し、キャリブレーション画面が表示されます。



- (3) 画面の 8 個の○を順番に見ます。青い●が○の中に入っているようでしたら(8 個全て確認します)、右上の×を注視してキャリブレーション画面を閉じます。



※視線入力オプションの設定によっては、青い●の上にもう1つ●(色も様々)が表示されます。

- (4) 青い●が○の外にはみ出している場合は、右下の「キャリブレーション更新」ボタンを注視(クリック)します。キャリブレーション更新手順は、13 ページの「トビーPCEye Mini の設定を行います(ユーザープロフィールの作成)」の(1)~(6)の手順と同様です。
- (5) キャリブレーションが終了すると、上記の画面に戻ってくるので、(2)~(3)場合によっては(4)を再び行います。

- (6) (3)で右上の×を注視(クリック)してキャリブレーション画面を閉じた場合は、伝の心のメインメニューが起動します。



#### 視線入力有効時の「伝の心」の終了

- (1) 伝の心のメインメニューの[終了]を注視するとサブメニューが表示されるので、[終了(電源断)]をします。



- (2) 確認メッセージが表示されるので、[[はい]]を注視すると「伝の心」が終了して、システム装置の電源が切れます。

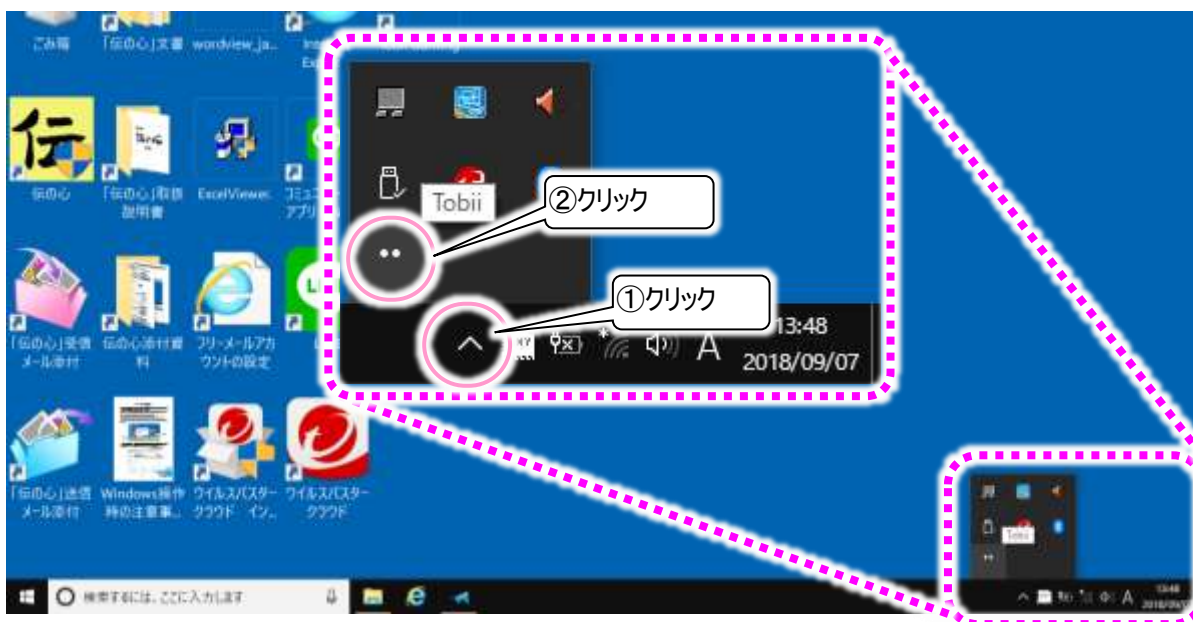


## ■ tobii アイトラッキングツールについて

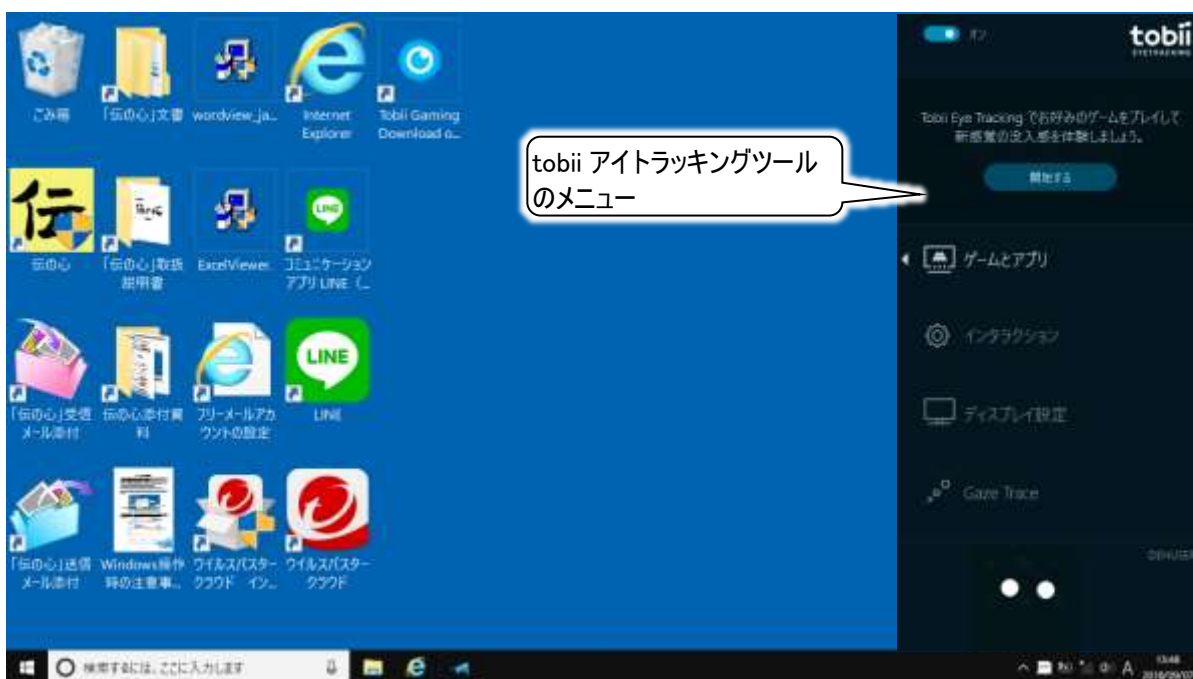
視線入力を使用するために、コアソフトウェアをインストールすると、デスクトップ画面右下のタスクトレイに「tobii アイトラッキング」が自動的に表示されるようになります。このツールを使用することで、4 ページの「■ はじめて使う時の準備」で説明した「ユーザープロフィール」の設定や「ディスプレイ設定画面」での位置調整が再度行えます。

### tobii アイトラッキングツールの起動と終了

(1) デスクトップ画面右下のタスクトレイから  tobii アイコンをマウスでクリックします。



(2) tobii アイトラッキングツールのメニューが表示されます。このメニューは、メニュー以外の場所をクリックすれば閉じます。



## インタラクション (OS の設定)

- (1) tobii アイトラッキングツールのメニューの「インタラクション」をクリックすると、下記画面が表示されます。左ペインのメニューには「電源」「タッチパッド」「マウス」「Windows」「説明」があります。



- (2) 伝の心を使用する上で、特に設定するものではありませんが、電源メニューで[明るさを暗くする]がオンになっている場合、トビーPCEye Mini がユーザーを認識しなくなった場合画面が暗くなります。気になるようでしたら、マウスクリックしてオフにしてください。



※ご使用の伝の心によっては、電源の設定ができないものもありますが、その場合はそのままご使用になっても画面は暗くなりませんので設定不要です。

① この設定は現在有効なWindows電源プランでは使用できません。

## ディスプレイ設定

- (1) tobii アイトラッキングツールのメニューの「ディスプレイ設定」をクリックすると、下記画面が表示されます。トビーPCEye Mini を取り外して再度取り付ける場合などで、画面の位置調整をする際にご利用ください。



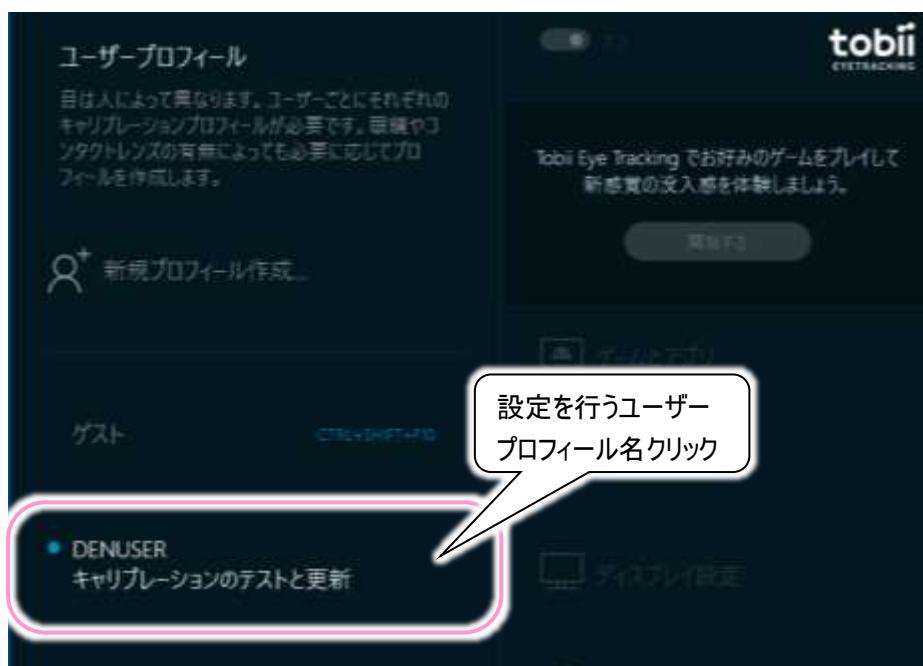
- (2) **終了** ボタンまたは右上 × のクリックで画面は閉じます。

## ユーザープロフィール設定（キャリブレーション）

- (1) tobii アイトラッキングツールのメニューの一番下には、13 ページの「トビーPCEye Mini の設定を行います（ユーザープロフィールの作成）」で作成したユーザープロフィール名と使用者の目が表示されています。その部分をマウスでクリックすると、ユーザープロフィール設定メニューが表示されます。



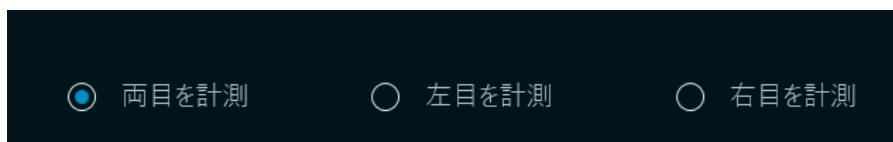
- (2) 再設定を行うユーザープロフィール名をクリックします。  
現在使用しているユーザープロフィールの設定を行いたい場合は、ユーザープロフィール名の左端に青い●が表示されているユーザープロフィール名をクリックします。  
新しくユーザープロフィールを作成したい場合は、「新規プロフィール作成...」をクリックします。



- (3) キャリブレーション画面が表示されます。

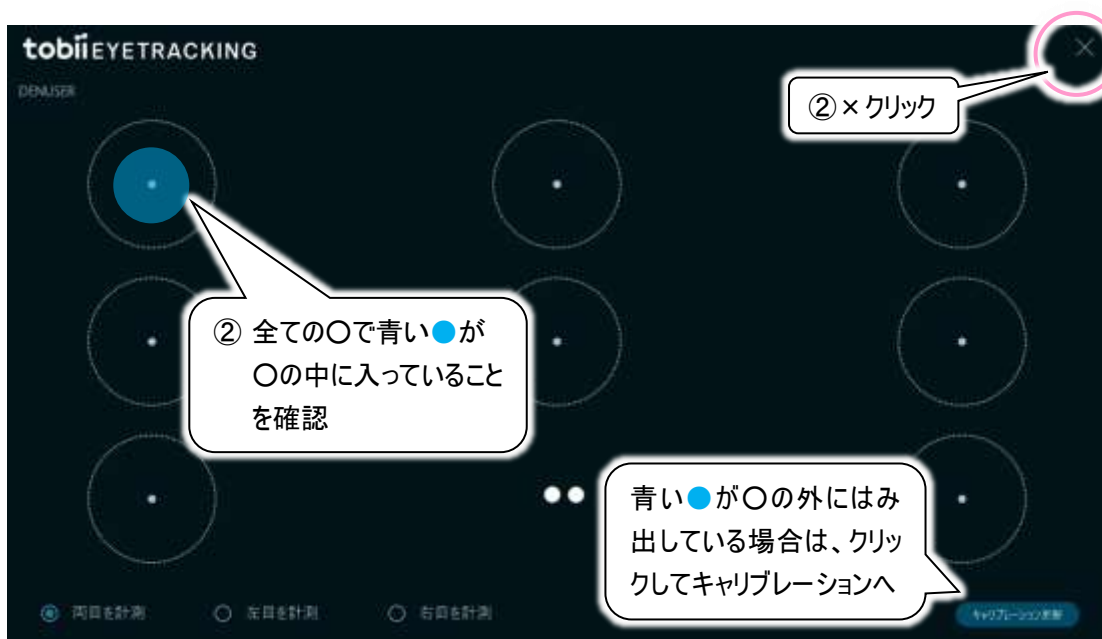


- (4) 左下に計測のオプションが表示されています。  
初期設定は[両目を計測]ですが、両目で見ているのに片目しか認識されないときがある場合は、[左目を計測]又は[右目を計測]をクリックして選んでください。





- (5) 画面の 8 個の○を順番に見ます。青い●が○の中に入っているようでしたら(8 個全て確認します)、右上の×をクリックしてキャリブレーション画面を閉じます。



※視線入力オプションの設定によっては、青い●の上にもう1つ●(色も様々)が表示されます。

- (6) 青い●が○の外にはみ出している場合は、右下の「**キャリブレーション更新**」ボタンをクリックします。キャリブレーション更新手順は、13 ページの「トビーPCEye Mini の設定を行います(ユーザープロフィールの作成)」の(1)~(6)の手順と同様です。  
新規にプロフィールを作成した場合は、16 ページの(7)の手順も含まれます。

※キャリブレーションの更新は、CPU 負荷が非常に高くなるため、OS の状態によっては視線制御ソフトが停止してしまうことがあります。停止すると操作不能になってしまいますので、キャリブレーションの更新を行う場合は、必ず支援者の方と一緒に行ってください。  
視線制御ソフトが停止した場合は、57 ページの「キャリブレーションを行ったら、動作不能になった」を参照ください。

- (7) キャリブレーションが終了すると、上記の画面に戻ってくるので、(5)、場合によっては(6)を再び行います。

## 視線入力オプションを使う(基本編)

---

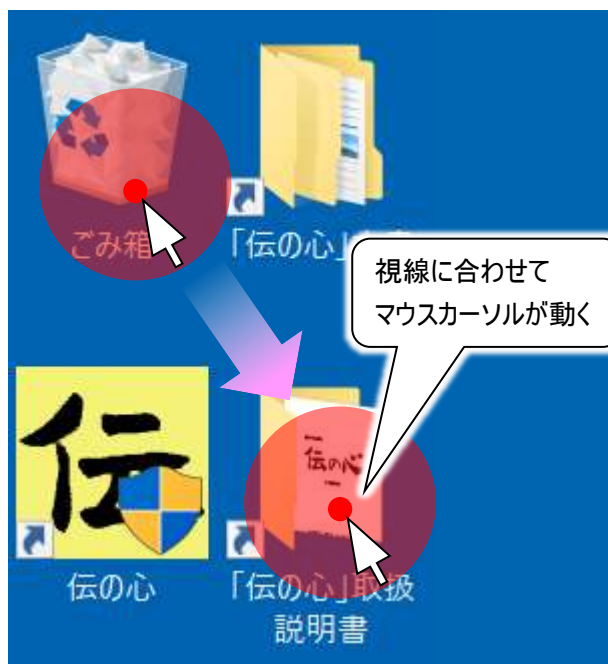
## ■マウскарソルとクリック(決定)動作

### 視線で動かすカーソル移動

視線を向けた位置にマウскарソルが動きます。  
マウскарソルの周りには色付きの円が表示されます。

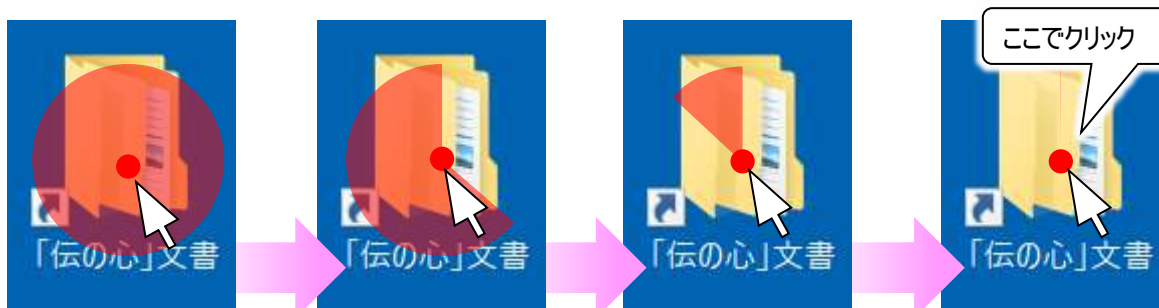
視線の自然な揺れを吸収するために、この円の中から視線が外れた時にマウскарソルが視線に追従して動くようになります。

※円の大きさや色は設定で変更可能です。また、円を非表示にすることも可能です。  
詳細は 52 ページの「マウскарソルの周りの円の大きさ(反応範囲)と表示の有無」を参照ください。



### クリック(決定)するには

マウскарソルが同じエリアに一定時間留まっていると、マウскарソルの周りの色付きの円が時計回りに消えていき、円が消えた時にクリック動作が行われます。



※伝の心の「Windows 操作」以外では、マウスクリックは全て左クリックとなります。  
「Windows 操作」については 39 ページの「■Windows 操作(視線入力有効時)」をご覧ください。

※なんでもスイッチを併用する場合は、スイッチ入力でマウスクリック動作が行われますので、マウскарソルの周りの色付きの円が消える前にクリック動作を行うことができます。  
色付きの円が消え始めていなくても同様です。

※クリック動作が行われるまでの時間は変更可能です。詳細は 51 ページの「マウスクリックまでの時間」を参照ください。

## ■視線入力の一時的停止・再開

伝の心のガイダンス行の注視で一時的停止・再開が可能です

### ○一時的停止

ガイダンス行を一定時間注視すると、**伝**アイコンが**伝**アイコンに変化して、視線入力を一時的に停止します。



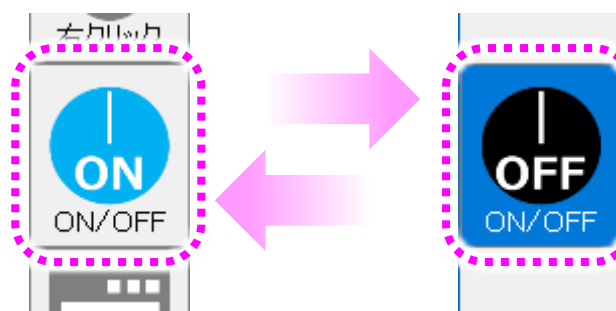
### ○視線入力再開

**伝**アイコンになっているガイダンス行を一定時間注視すると、**伝**アイコンに変化して、視線入力が再開します。

ガイダンス行が無い Windows 操作では[ON/OFF]ボタンがあります

[ON/OFF]ボタンを一定時間注視することで、視線入力を一時停止/再開と切り替えられます。

※「Windows 操作」については 39 ページの「**■** Windows 操作(視線入力有効時)」をご覧ください。



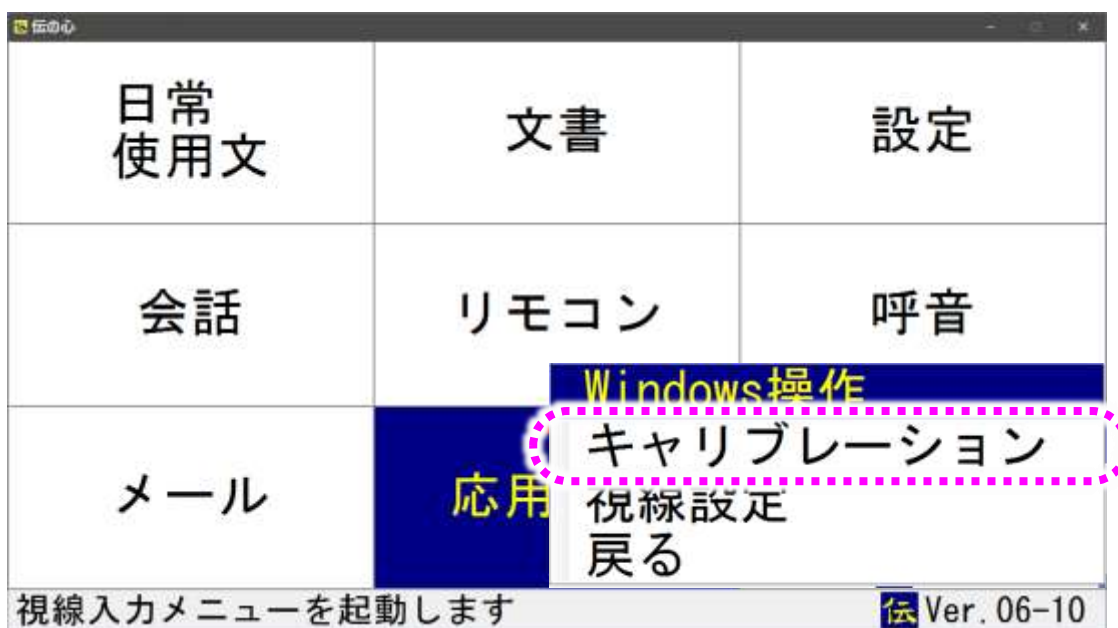
## ■視線入力が上手く行かないときは

視線がずれていると感じた時にはキャリブレーション

視線入力を行っている途中で、見ているところに上手くマウスカーソルが動かないと感じた場合は、キャリブレーションを行って、視線とマウスカーソルを合わせると改善するかもしれません。

「伝の心」起動時にはキャリブレーション画面が表示されますが、その時キャリブレーションを行わなくても、下記の手順でキャリブレーション画面を表示することが可能です。

(1) 伝の心のメインメニューから[応用操作]→[キャリブレーション]を選択します。

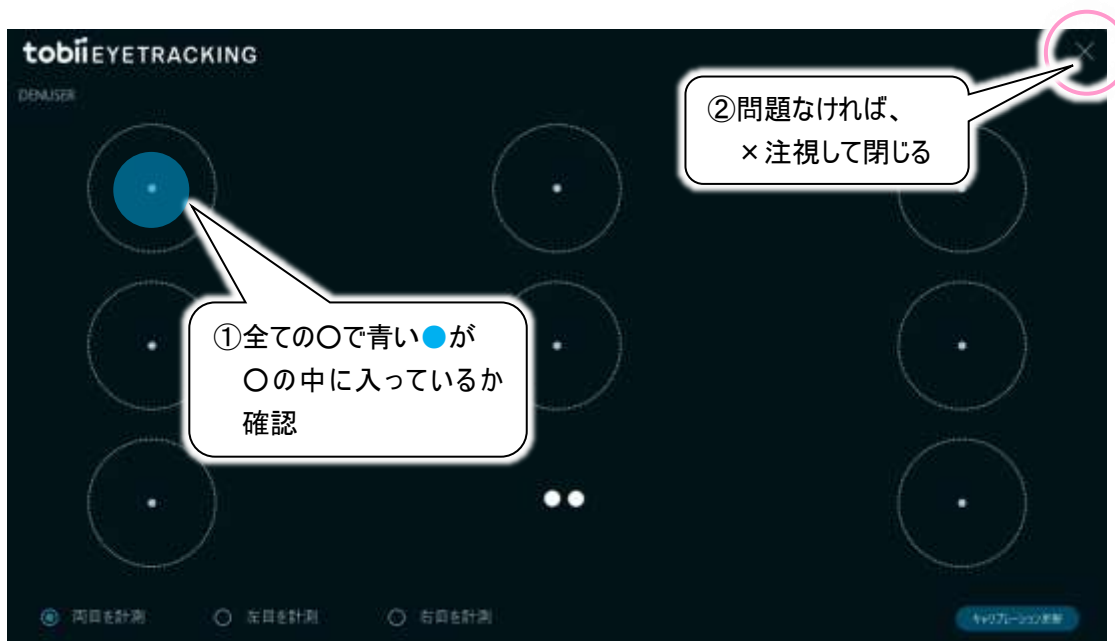


(2) 「伝の心」起動時に表示されたキャリブレーション画面が表示されます。



※視線入力オプションの設定によっては、青い●の上にもう1つ●(色も様々)が表示されます。

- (3) 画面の 8 個の○を順番に見ます。青い●が○の中に入っているようでしたら(8 個全て確認します)、右上の×を注視してキャリブレーション画面を閉じます。  
 この場合、上手くマウスカーソルが動かないと感じた原因は、視線とマウスカーソルのずれではありません。31 ページの「マウスカーソルの動きがぎこちない・動きすぎると感じた時には」を参照してマウスカーソルの動きを調整してみてください。

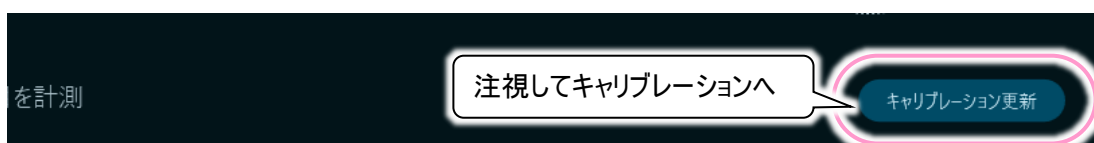


- (4) 片目だけで見ている方、または左右どちらかの目を見た方が、上手くマウスカーソルを動かせる方は、左下の[左目を計測]または[右目を計測]を注視して選択してください。



※[左目を計測]または[右目を計測]を選択した場合、片目を閉じる必要はありません。

- (5) 青い●が○の外にはみ出している場合、(4)で計測方法を変更した場合は、右下の「キャリブレーション更新」ボタンを注視(クリック)します。



- (6) キャリブレーション更新手順は、13 ページの「トビーPCEye Mini の設定を行います(ユーザープロフィールの作成)」の(1)~(6)の手順と同様です。  
 (7) キャリブレーションが終了すると、(2)の画面に戻ってくるので、(3)、場合によっては(4)、(5)を再び行います。  
 (8) (3)で右上の×を注視(クリック)してキャリブレーション画面を閉じた場合は、伝の心のメインメニューに戻ります。

## マウスカースルの動きがぎこちない・動きすぎると感じた時には

人間の目には、生理的眼振(正常な眼振)があり、常に一点を集中して見ているものではありません。伝の心の視線入力ソフトウェアはこの生理的眼振を考慮して、マウス追従の無効範囲を設けております。また、視線を向けた位置に、マウスカースルが移動を始める早さも若干時間を設けております。このマウス追従の無効範囲やマウスカースルが移動を始める早さを調整することによって、各使用者に合わせた設定が可能です。

視線入力の設定の詳細は、48 ページの「**■**視線入力の設定」を参照ください。

### ○マウスカースルの動きがぎこちない

マウス追従の無効範囲を小さくすると、視線の動きが小さくてもマウスが動き始めます。

52 ページの「マウスカースルの周りの円の大きさ(反応範囲)と表示の有無(反応範囲の表示)」を参照して「反応範囲」の設定を小さくしてみましょう。



また、マウスカースルが移動を始める早さを早くすると、視線の動きにマウスがすぐ反応するようになります。

51 ページの「視線のマウス追従速度(反応速度)」を参照して「反応速度」の設定を「高」にしてみましょう。



### ○マウスが動きすぎる

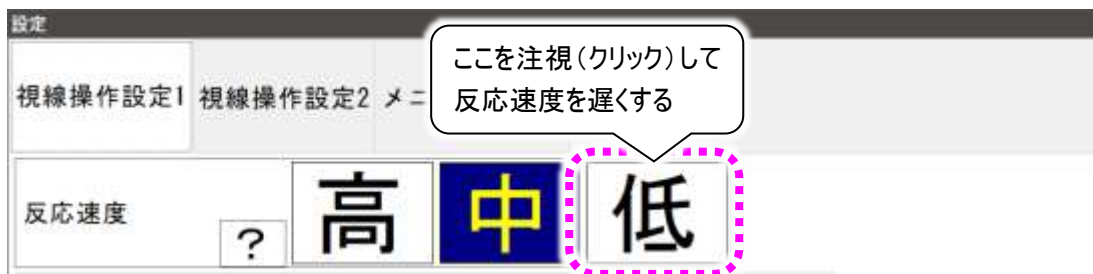
生理的眼振が大きいかもしれません。マウス追従の無効範囲を大きくすると、生理的眼振でマウスが動き始めることが少なくなります。

52 ページの「マウスカースルの周りの円の大きさ(反応範囲)と表示の有無(反応範囲の表示)」を参照して「反応範囲」の設定を大きくしてみましょう。



※あまり大きくすると、細かいマウスの動きができなくなるので、注意しましょう。

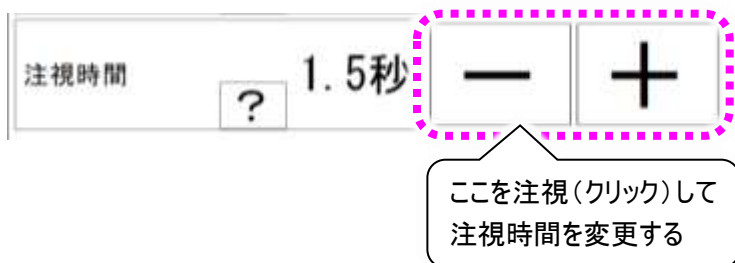
また、マウスマウスカーソルが移動を始める早さを遅くすると、視線の動きにマウスがすぐ反応しないようになります。51 ページの「視線のマウス追従速度(反応速度)」を参照して「反応速度」の設定を「低」にしてみましょう。



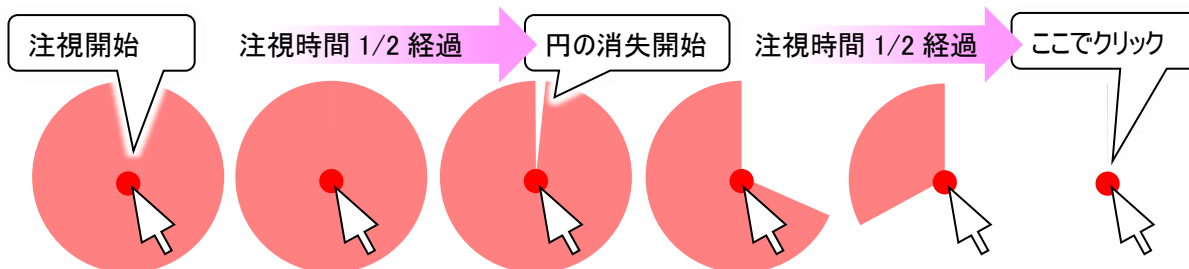
### マウスクリックまでの時間が早すぎる・遅すぎると感じた時には

マウスクリックまでには一定の時間同じところを注視してはなりませんが、この注視時間は設定によって変更可能です。

51 ページの「マウスクリックまでの時間(注視時間)」参照して「注視時間」の設定を変更してみましょう。



反応範囲を表示する設定(出荷時の設定)にしている場合は、注視時間の 1/2 の時間が経過すると、反応範囲の円が時計回りに消失を始め、完全に消失したところでクリックが実行されます。





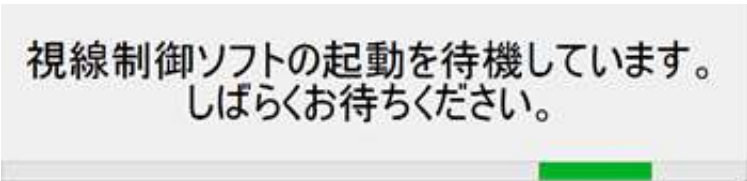
## 視線入力オプションを使う(詳細編)

---

## ■通常版「伝の心」との違い

### 電源 ON 時の起動画面について

システム装置の電源ボタンで起動時、右記の画面が表示されます。



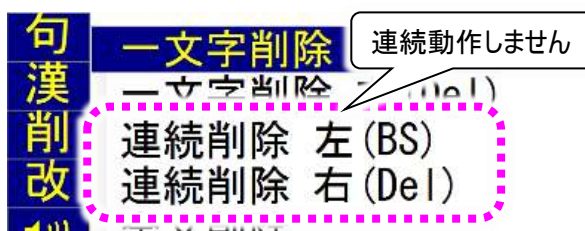
視線制御ソフトの起動を待機しています。  
しばらくお待ちください。

### 操作が連続して行われる機能の制限について

[↑]、[↓]、[←]、[→]などの、スイッチ入力するまで連続で動作するボタンに関して、**連続動作は行いません。1 回のみ動作します。**

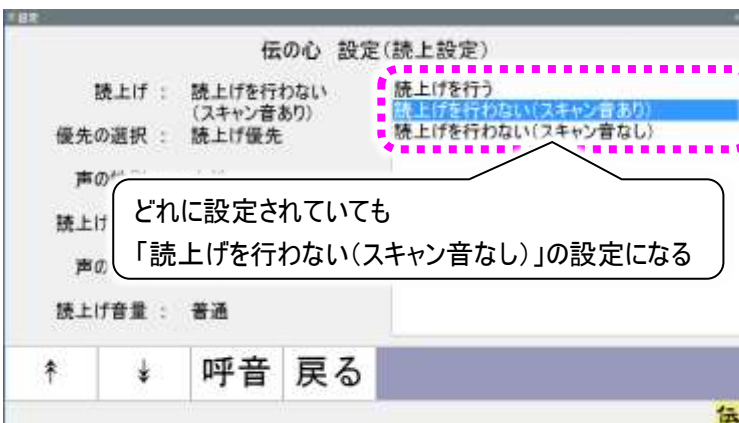


右の図は、連続動作しない項目の一例です。



### メニューの読上げやスキャン音について

読上設定において、「読上げを行う」または「読上げを行わない(スキャン音あり)」に設定してあっても、**「読上げを行わない(スキャン音なし)」の設定で動作します。**

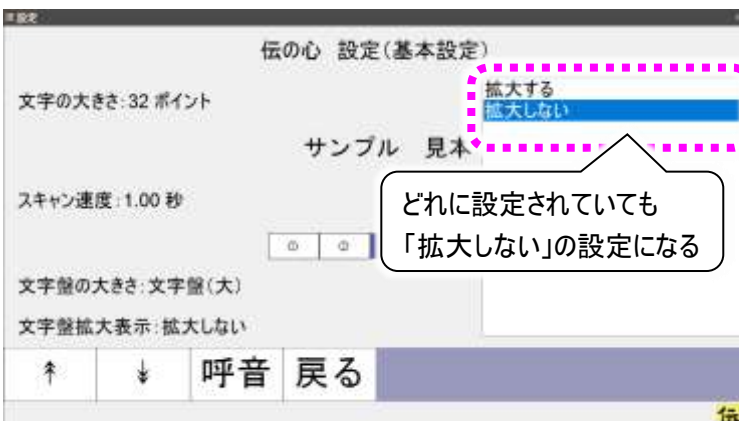


メニューの読上げは行われず、スキャン音は鳴りません。

ただし、伝の心設定画面での表記は、視線入力無効時の表記から変わりません。

### 文字盤の拡大表示について

基本設定において、文字盤拡大表示を「拡大する」に設定してあっても、**文字盤の選択文字の拡大は行われません。**



拡大表示の代わりにマウスカーソル付近を拡大する設定が可能です。

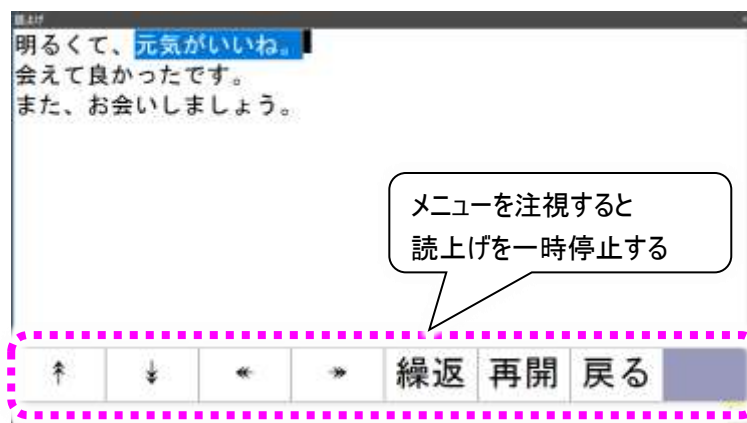
詳細は、53 ページの「マウスカーソル付近の拡大表示(拡大鏡表示)」を参照ください。

## 読上げ画面の操作

[**↶**]]の選択で編集域の読上げが開始しますが、未確定文字列の読上げなど**読上げ画面を表示しない読上げの場合、途中で読み上げを止める事ができません。**

確定文字列の場合、読上げ画面を表示しますが、**読み上げを途中で一時停止する場合は、読上げ画面のメニュー部分を注視します。**

読み上げが停止した後は、メニューを注視することで視線入力無効時と同様の操作が可能です。ただし、[**↑**]]、[**↓**]]、[**←**]]、[**→**]]に関しては、34 ページの「操作が連続して行われる機能の制限について」に記載の通り、連続動作は行いません。



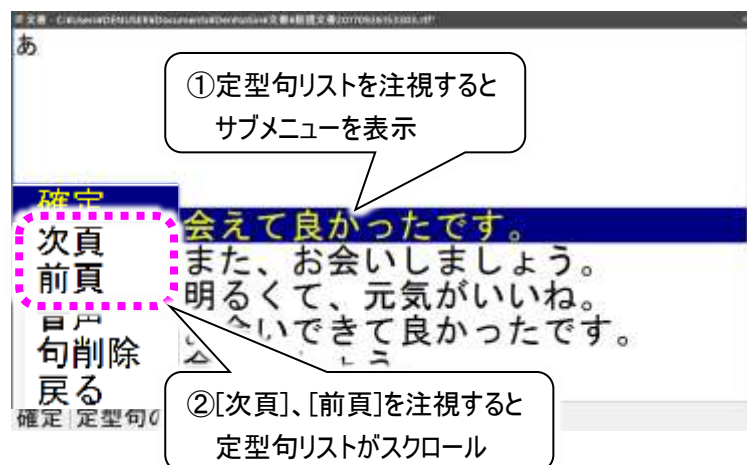
## 定型句入力画面の操作

視線入力無効時とはサブメニューの表記も、操作方法も異なります。

定型句リストは**自動でスクロールしません。**

定型句リストを注視して表示されるサブメニューから、[**次頁**]]、[**前頁**]]を注視(選択)することによって、画面内に表示されている項目数の数だけ、**上や下に1回スクロールします。**

もう一度スクロールさせるには、再度[**次頁**]]、[**前頁**]]を注視(選択)します。



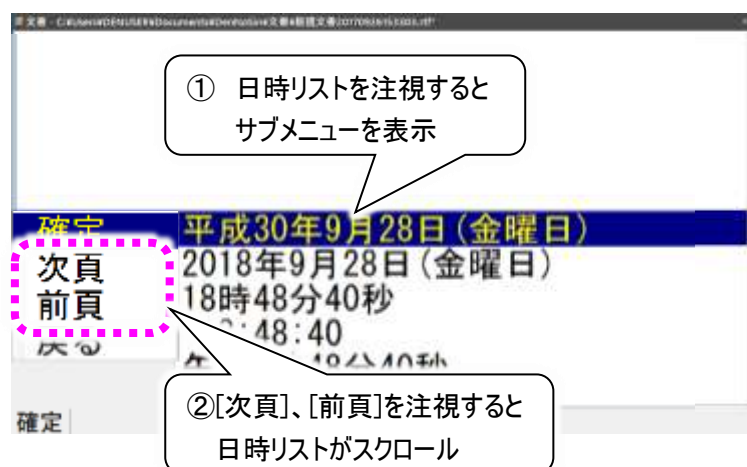
## 日時入力画面の操作

上の「定型句入力画面の操作」と同様に、視線入力無効時とはサブメニューの表記も、操作方法も異なります。

日時リストは**自動でスクロールしません。**

日時リストを注視して表示されるサブメニューから、[**次頁**]]、[**前頁**]]を注視(選択)することによって、画面内に表示されている項目数の数だけ、**上や下に1回スクロールします。**

もう一度スクロールさせるには、再度[**次頁**]]、[**前頁**]]を注視(選択)します。

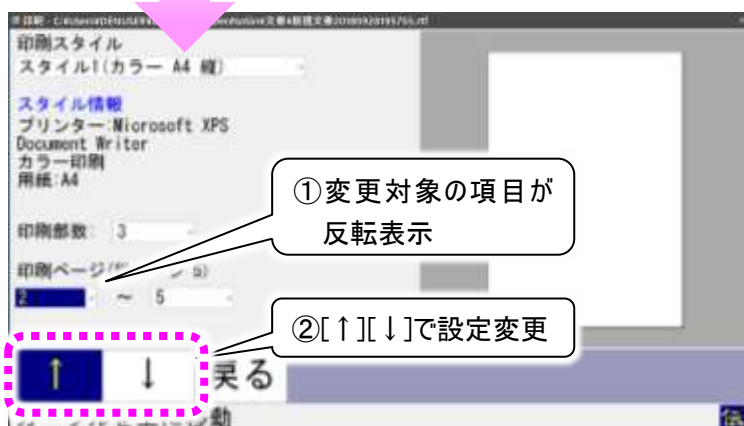
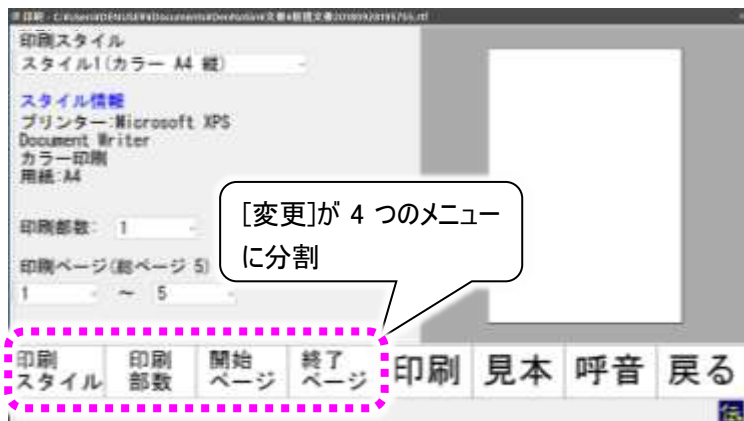


## 文書印刷画面の操作

視線入力無効時とはメニューや操作方法が異なります。

**[変更]**ボタンで変更していた、「印刷スタイル」「印刷部数」「印刷開始ページ」「印刷終了ページ」が、**[印刷スタイル][印刷部数][開始ページ][終了ページ]**の4つのメニューに分かれます。

- (1) 分割された4つのメニューのいずれかを注視(選択)すると、選択された項目の設定値が反転表示され、メニューが選択メニューに切り替わります。
- (2) 選択メニューの[↑]または[↓]を注視(選択)して、設定値を変更します。
- (3) [戻る]を注視(選択)して、印刷メニューに戻ります。
- (4) (1)~(3)を繰り返して、4つの項目を設定します。



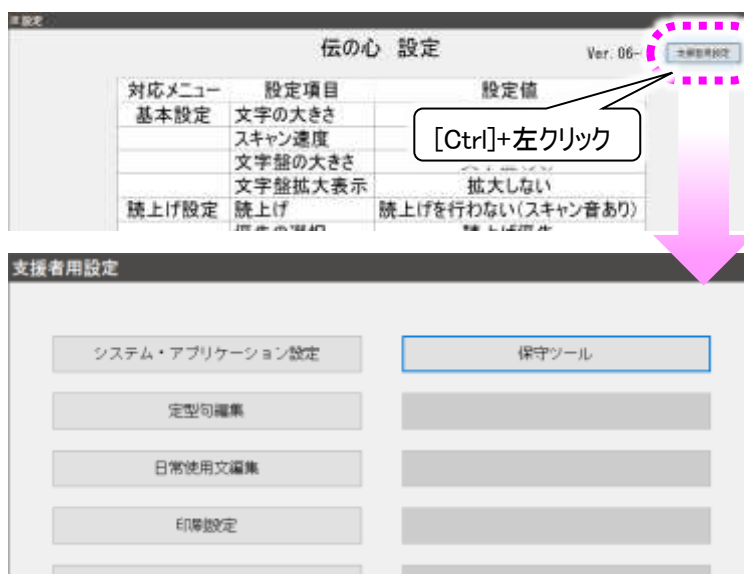
その他の項目については、視線入力無効時の動作と変わりませんが、視線入力無効時、連続動作していた項目(見本画面の移動メニュー)については、34ページの「操作が連続して行われる機能の制限について」に記載の通り、連続動作は行いません。

## 支援者用設定画面について

伝の心設定画面から支援者用設定画面に入る方法が異なります。

**[支援者用設定]**ボタンをマウスでクリックしても、支援者用設定画面は表示されません。

支援者用設定画面は**[支援者用設定]**ボタンを**[Ctrl]**キーを押下しながらマウスでクリックしないと、表示されません。



## 応用操作（Windows 操作・ブラウザ操作）について

伝の心メインメニューに表示される[応用操作]に関して、下記の変更があります。

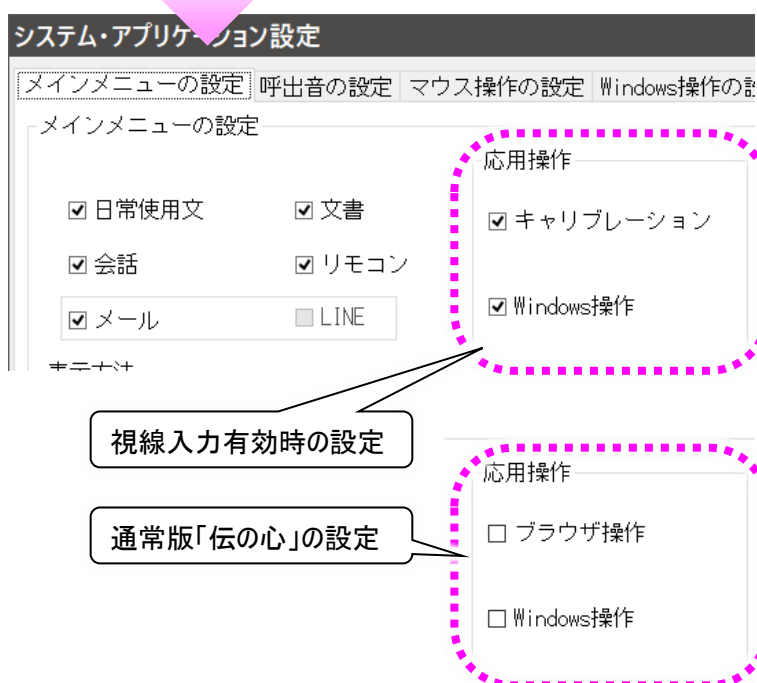
### ○Windows 操作

視線入力有効時は、通常版「伝の心」と違う**視線入力専用のメニューを表示**します。詳細は、39 ページの「**Windows 操作（視線入力有効時）**」を参照ください。また、支援者用設定において、**[Windows 操作]**を表示しないように設定してあっても、**自動的に表示されるように設定されます**。

※支援者用設定で表示/非表示は選択可能です。

### ○ブラウザ操作

**表示されません**。Windows 操作にてブラウザを起動して閲覧ください。



## 応用操作（視線入力有効時に表示されるメニュー）について

### ○キャリブレーション

視線入力有効時は、**表示される設定になります**。

応用操作のサブメニューより選択時は、伝の心起動時に表示されるキャリブレーション画面を表示します。

キャリブレーション画面の詳細は 19 ページの「視線入力有効時の「伝の心」の起動」を参照ください。

※支援者用設定で表示/非表示は選択可能です。

### ○視線設定

視線入力有効時は、**表示される設定になります**。

応用操作のサブメニューより選択時は、視線入力の設定画面を表示します。

視線入力の設定画面の詳細は 48 ページの「**視線入力の設定**」を参照ください。

※支援者用設定で表示/非表示は選択できません。（設定項目はありません。）



## 応用操作（メール/LINE）について

### ○LINE 操作

支援者用設定において、[LINE]をメインメニューに表示する設定にしても、非表示に設定されます。

※[LINE]の項目は変更できない表示となっています。

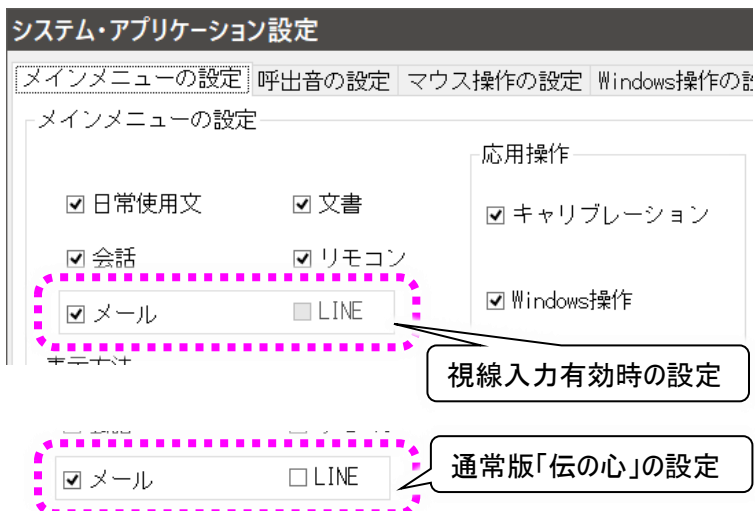
また、Windows 操作の視線入力専用のメニューには[LINE]の項目がありません。

ただし、Windows 操作にてデスクトップのLINE アイコンからLINE を起動して操作可能です。

### ○メール

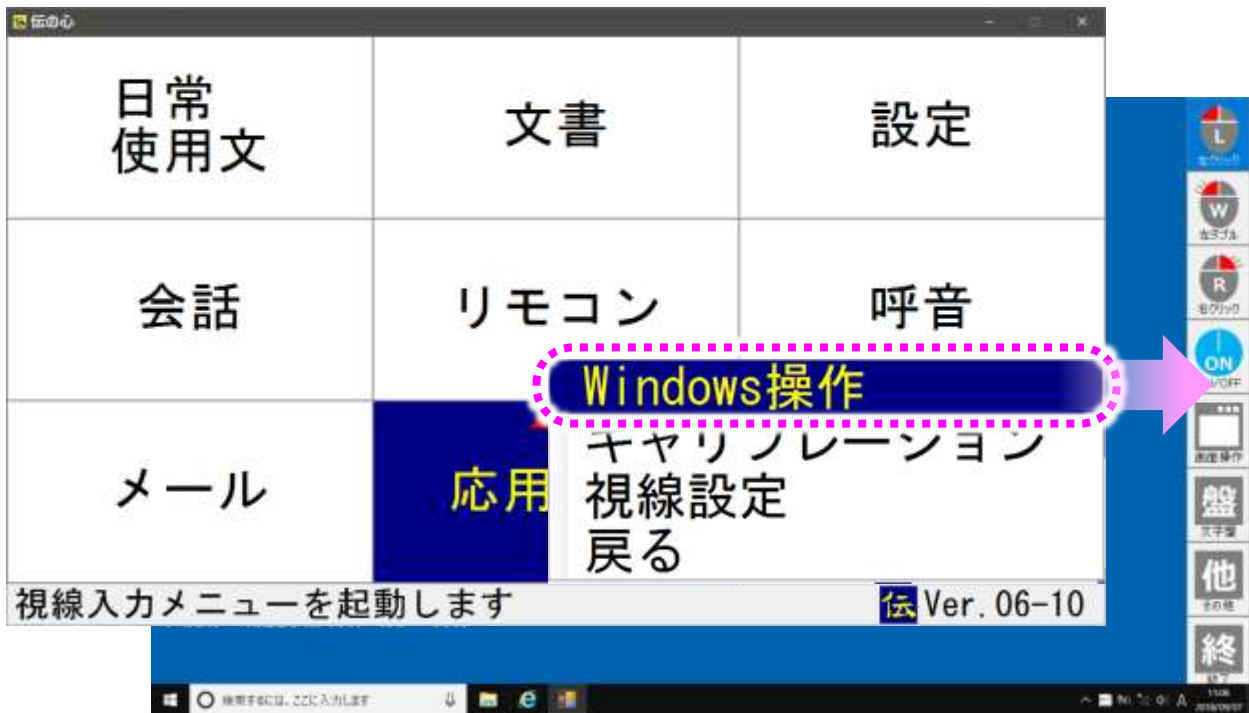
[メール]は表示・非表示どちらの設定にしても、[メール]を表示する設定に変更されます。

※支援者用設定で表示/非表示は選択可能です。



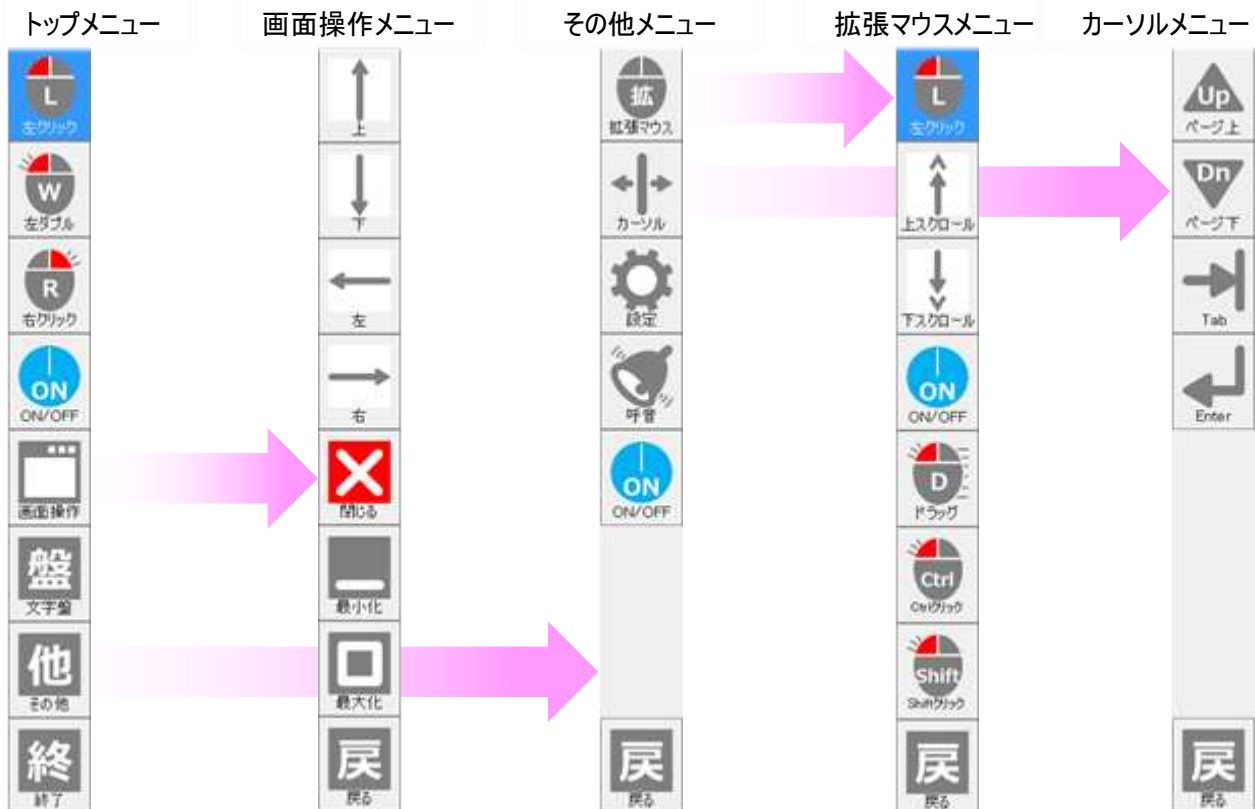
## ■Windows 操作(視線入力有効時)

伝の心のメインメニューから[応用操作]→[Windows 操作]を選択すると、視線入力メニューが表示された Windows 操作画面が表示されます。視線入力メニューはデスクトップ画面右端に表示されます。

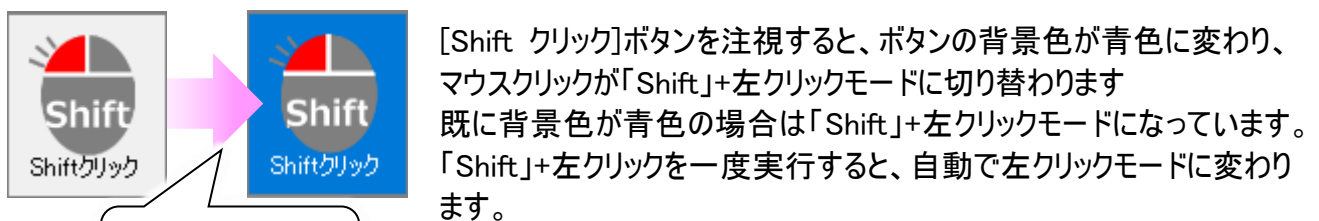
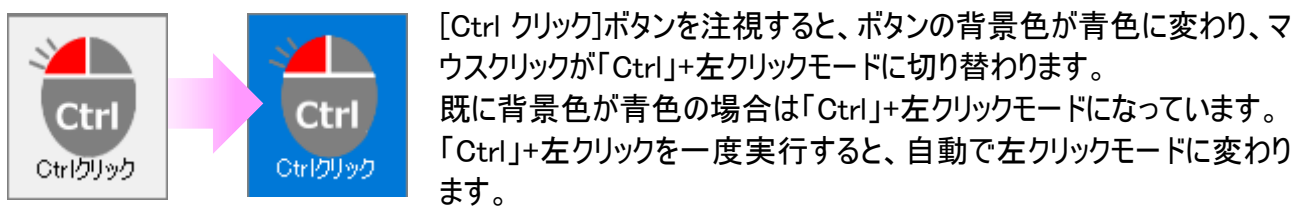
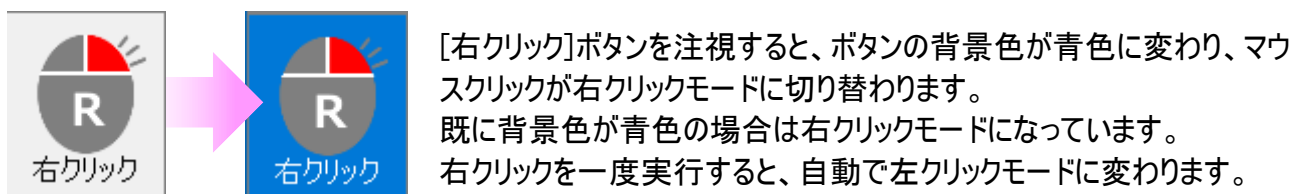
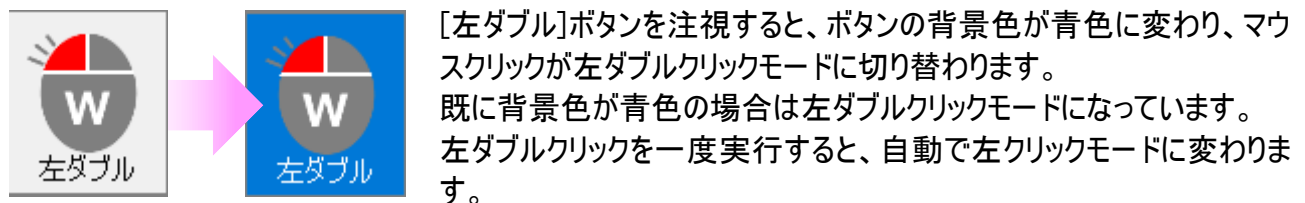
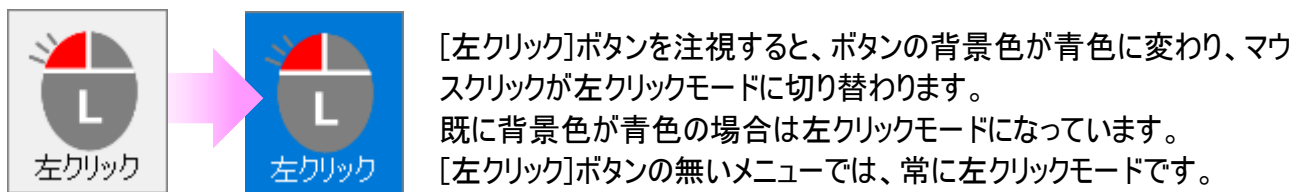


### メニュー一覧

入力メニューはデスクトップ画面右端に表示されます。下記にメニューの遷移を含めた一覧を表示します。

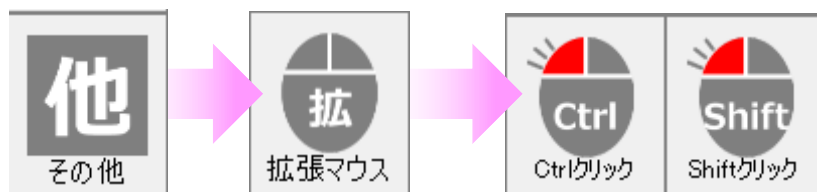


## マウスクリックの切り替え（左クリック・右クリックなど）



注視して、クリック  
モードに切り替える

※[Ctrl クリック]ボタンと[Shift クリック]ボタンは、視線入力メニューのトップメニューから、[その他]→[拡張マウス]を順に注視（選択）して表示された拡張マウスメニューから選択できます。



※各マウスクリックの実行については、27 ページの「クリック（決定）するには」を参照ください。

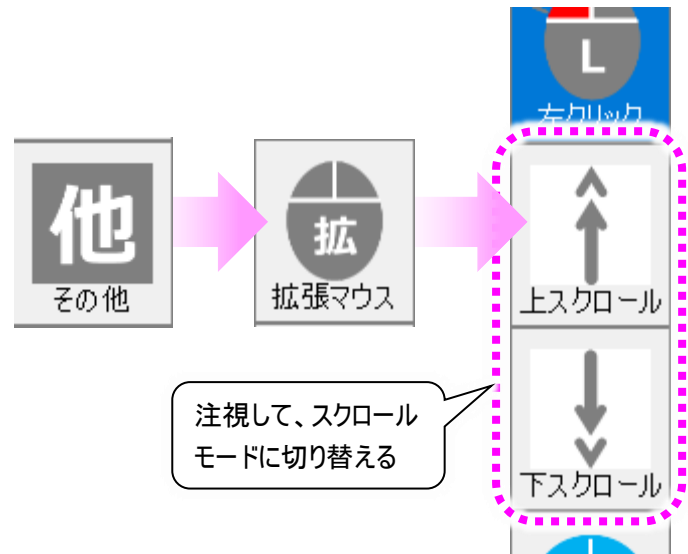


## マウスのスクロール

拡張マウスメニューからマウスのスクロールが可能です。

- (1) 視線入力メニューのトップメニューから、[その他]→[拡張マウス]を順に注視(選択)して表示された拡張マウスメニューから[上スクロール]または[下スクロール]ボタンを注視(選択)します。

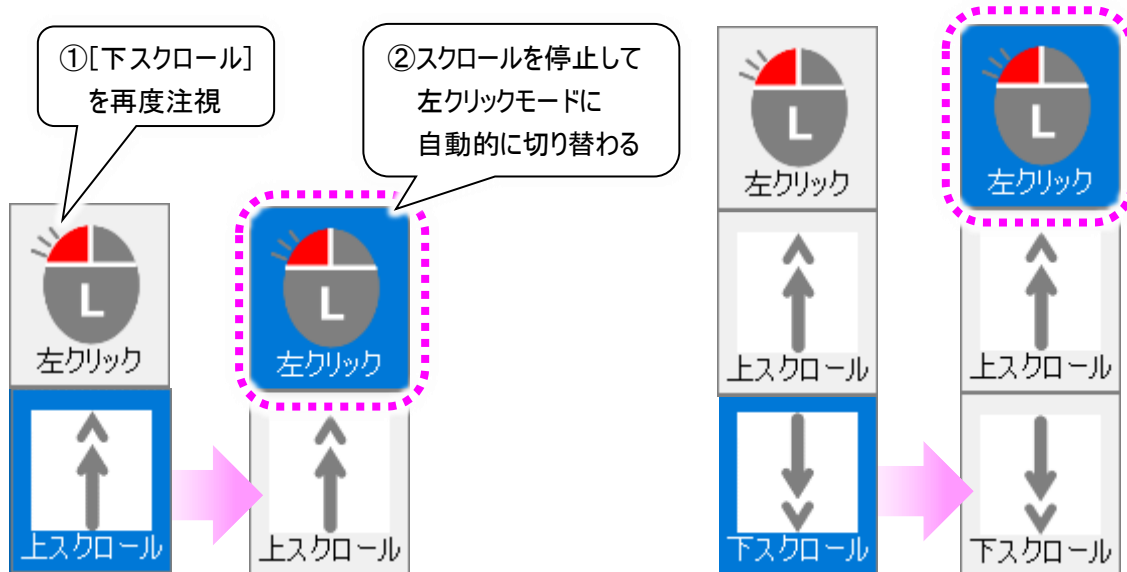
選択されたボタンは背景色が青色に変化します。



- (2) スクロール可能なアクティブな画面のスクロール可能領域を注視して、マウスカーソルを移動させます。

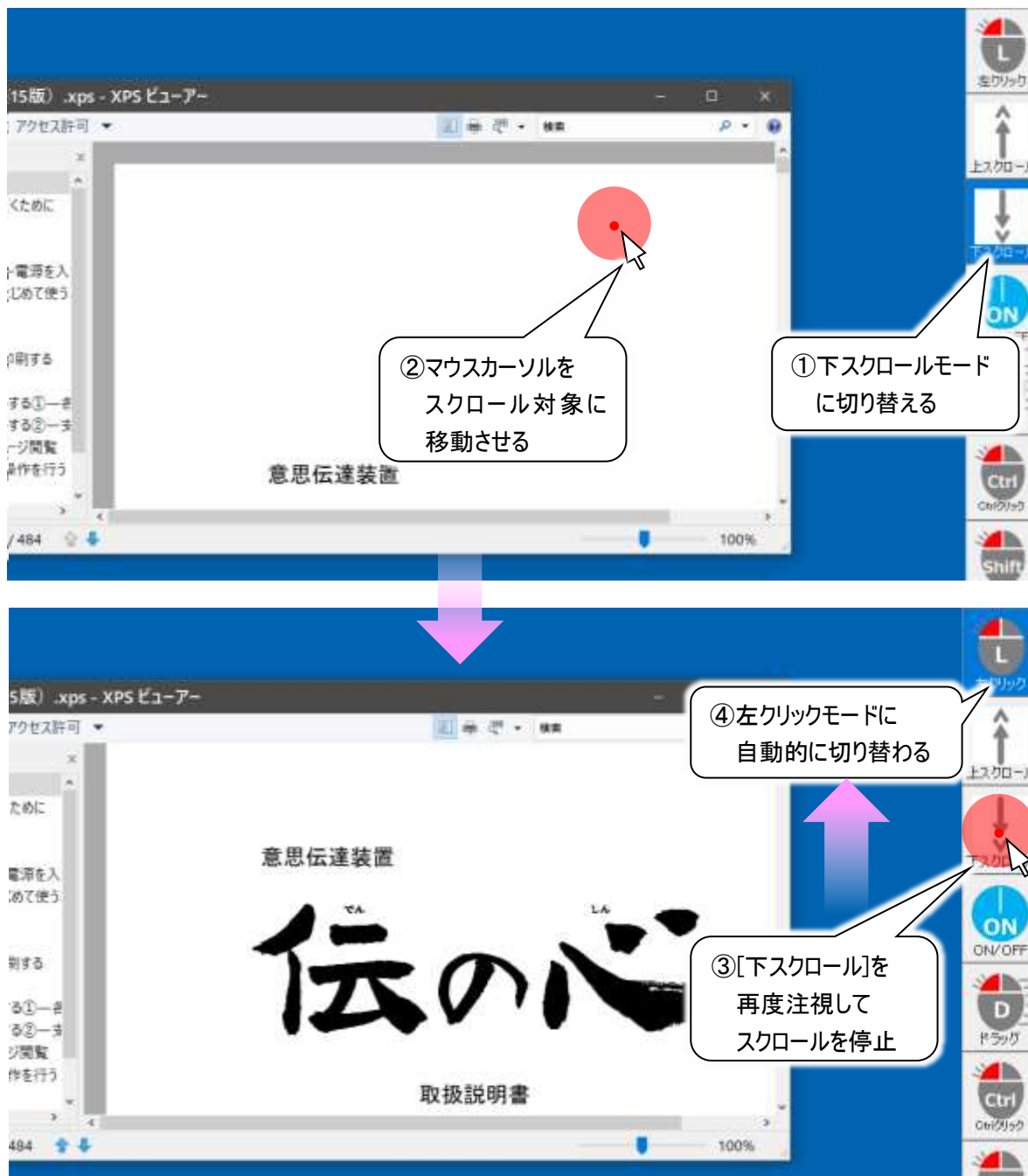
- (3) [上スクロール]を選択している場合は上方向に、[下スクロール]を選択している場合は下方向に、画面がスクロールします。

- (4) スクロールを停止する場合は、もう一度、背景色が青色になっている上スクロール]または[下スクロール]ボタンを注視(選択)します。



- (5) 注視したボタンの背景色が元の色に戻り、自動的に左クリックモードに変わります。  
([左クリック]ボタンが選択されます)

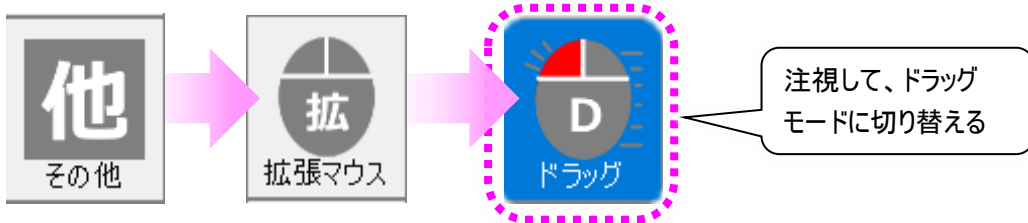
(6) 下の画面は「伝の心取説」を下方向にスクロールしている画面です。



## ドラッグ&ドロップ操作

拡張マウスメニューからマウスのドラッグ&ドロップが可能です。

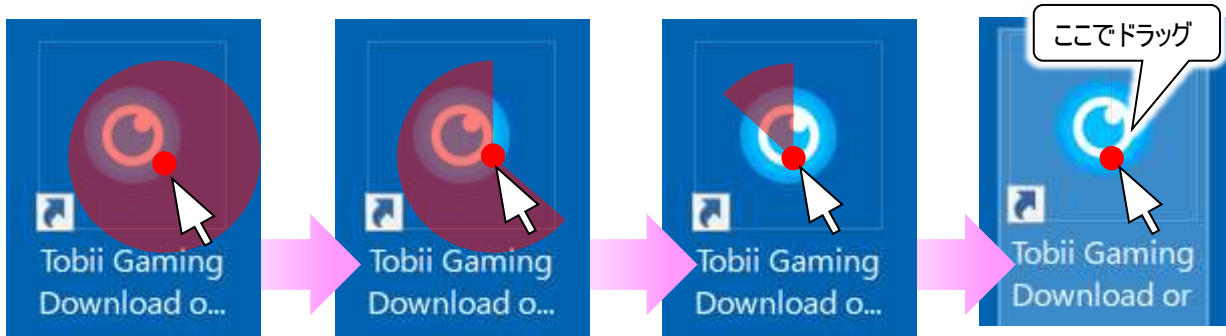
- (1) 視線入力メニューのトップメニューから、[その他]→[拡張マウス]を順に注視(選択)して表示された拡張マウスメニューから[ドラッグ]ボタンを注視(選択)します。



選択されたボタンは背景色が青色に変化します。

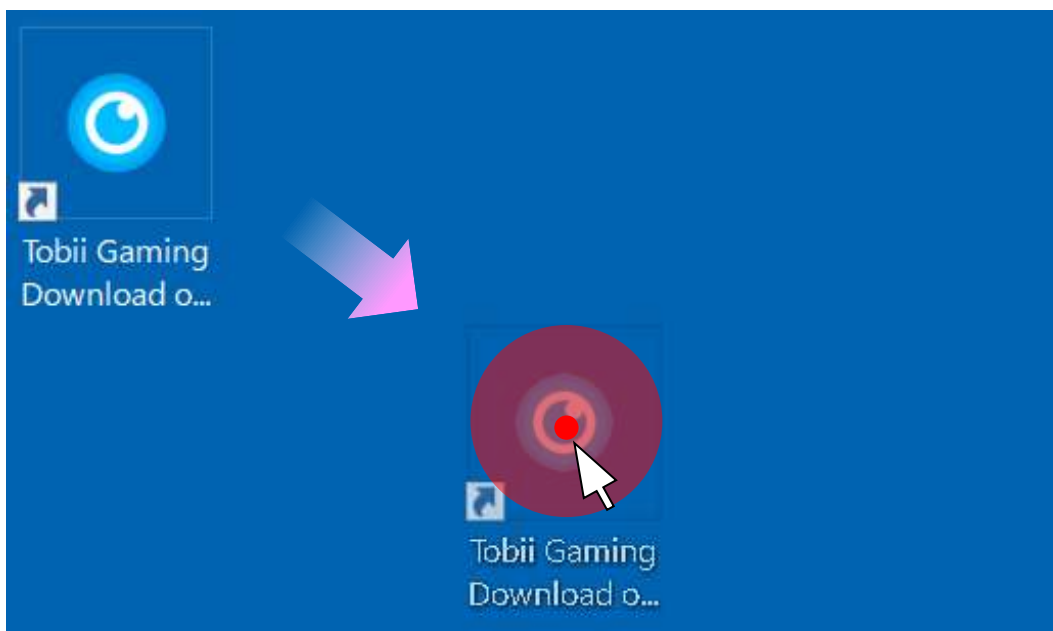
- (2) ここでは一例として、デスクトップアイコンを、ドラッグ&ドロップで移動してみます。

- (3) まず、移動対象のアイコンを注視して、マウスカーソルをアイコンの上に移動させます。

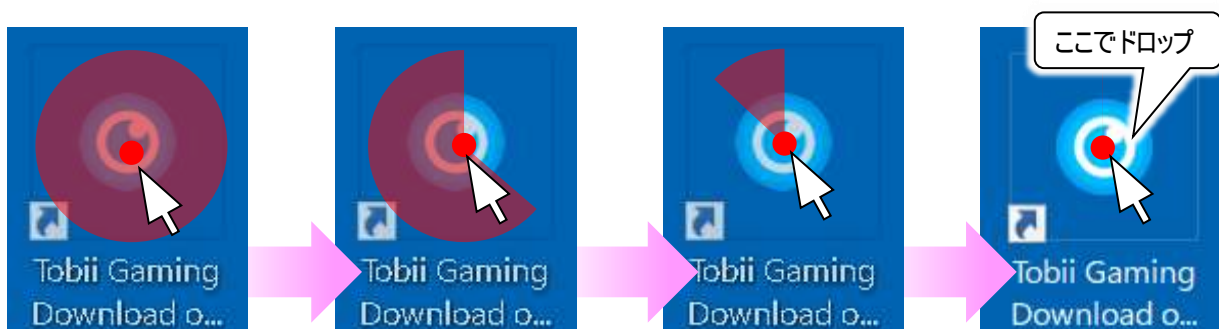


- (4) マウスカーソルが同じエリアに一定時間留まっていると、マウスカーソルの周りの色付きの円が時計回りに消えていき、円が消えた時にドラッグ動作が行われます。

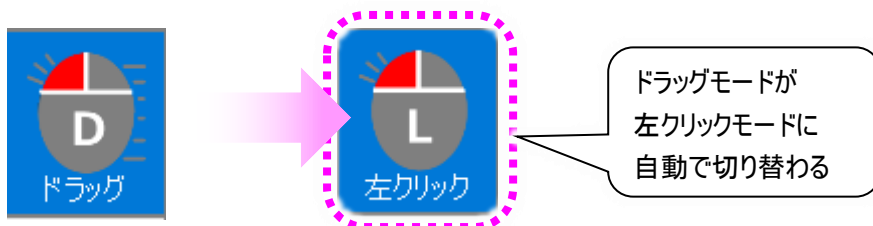
- (5) ドラッグしたアイコンはマウスカーソルと一緒に移動します。



(6) ドロップしたい場所を注視すると、(4)と同様にマウスカーソルの周りの色付きの円が時計回りに消えていき、円が消えた時にドロップ動作が行われます。



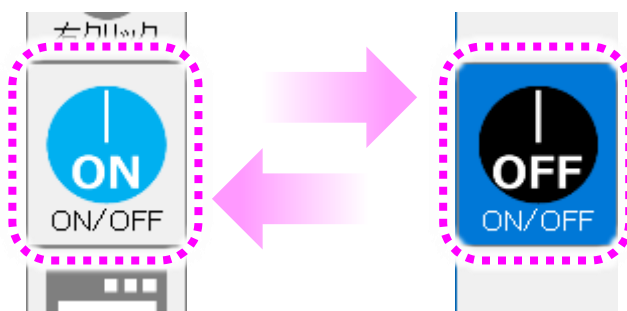
(7) ドロップ動作が終了すると、自動で左クリックモードに変わります。



## 視線入力の ON/OFF

[ON/OFF]ボタンを一定時間注視することで、視線入力を一時停止/再開と切り替えられます。

[ON/OFF]ボタンは、トップメニュー、その他メニュー、拡張マウスメニューに各々あります。



## 画面操作とカーソル移動



画面操作

画面操作は、視線入力トップメニューから[画面操作]を注視(選択)して表示された画面操作メニューから操作します。

[上]

ボタンを注視すると、ボタンの背景色が青色に変わり、現在アクティブになっている画面が上方向に移動をはじめます。

再度[上]ボタンを注視すると、ボタンの背景色が元の色に戻り、画面の移動が停止します。

[下]

ボタンを注視すると、ボタンの背景色が青色に変わり、現在アクティブになっている画面が下方向に移動をはじめます。

再度[下]ボタンを注視すると、ボタンの背景色が元の色に戻り、画面の移動が停止します。

[左]

ボタンを注視すると、ボタンの背景色が青色に変わり、現在アクティブになっている画面が左方向に移動をはじめます。

再度[左]ボタンを注視すると、ボタンの背景色が元の色に戻り、画面の移動が停止します。

[右]

ボタンを注視すると、ボタンの背景色が青色に変わり、現在アクティブになっている画面が右方向に移動をはじめます。

再度[右]ボタンを注視すると、ボタンの背景色が元の色に戻り、画面の移動が停止します。

[閉じる]

ボタンを注視すると、ボタンの背景色が青色に変わり、現在アクティブになっている画面が閉じます(終了します)。

※対象となる画面の仕様によっては、閉じない画面もあります。

[最小化]

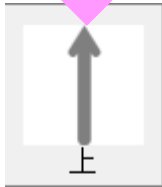
ボタンを注視すると、ボタンの背景色が青色に変わり、現在アクティブになっている画面が最小化します。

[最大化]

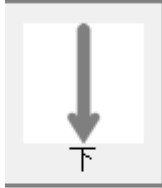
ボタンを注視すると、ボタンの背景色が青色に変わり、現在アクティブになっている画面が最大化します。

現在アクティブな画面が既に最大化している場合は、通常の画面サイズに戻ります。

※対象となる画面の仕様によっては、最大化ができない画面もあります。



上



下



左



右



閉じる



最小化



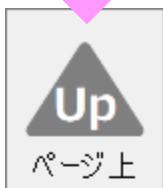
最大化



戻る



カーソル移動は、視線入力トップメニューから[その他]を注視(選択)して表示されたその他メニューから[カーソル]を注視(選択)して表示されたカーソルメニューから操作します。



[ページ上]

ボタンを注視すると、ボタンの背景色が青色に変わり、現在アクティブになっている画面にキーボードの「PageUp」キーを発行します。(キーボードで「PageUp」キーを押下したときと同様の操作です。)



[ページ下]

ボタンを注視すると、ボタンの背景色が青色に変わり、現在アクティブになっている画面にキーボードの「PageDown」キーを発行します。(キーボードで「PageDown」キーを押下したときと同様の操作です。)



[Tab]

ボタンを注視すると、ボタンの背景色が青色に変わり、現在アクティブになっている画面にキーボードの「Tab」キーを発行します。(キーボードで「Tab」キーを押下したときと同様の操作です。)



[Enter]

ボタンを注視すると、ボタンの背景色が青色に変わり、現在アクティブになっている画面にキーボードの「Enter」キーを発行します。(キーボードで「Enter」キーを押下したときと同様の操作です。)

## その他の機能



### [盤]

視線入力メニューを非表示にして、マウスクリックが左クリックモードに切り替わり、文字盤を起動します。

文字盤の「戻」を選択すると文字盤が終了して視線入力メニューを表示します。  
文字盤は、伝の心の文字盤と同じものです。

### [呼音]

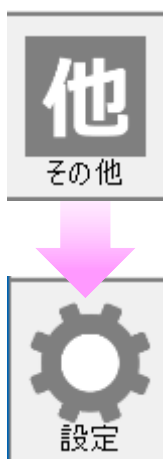
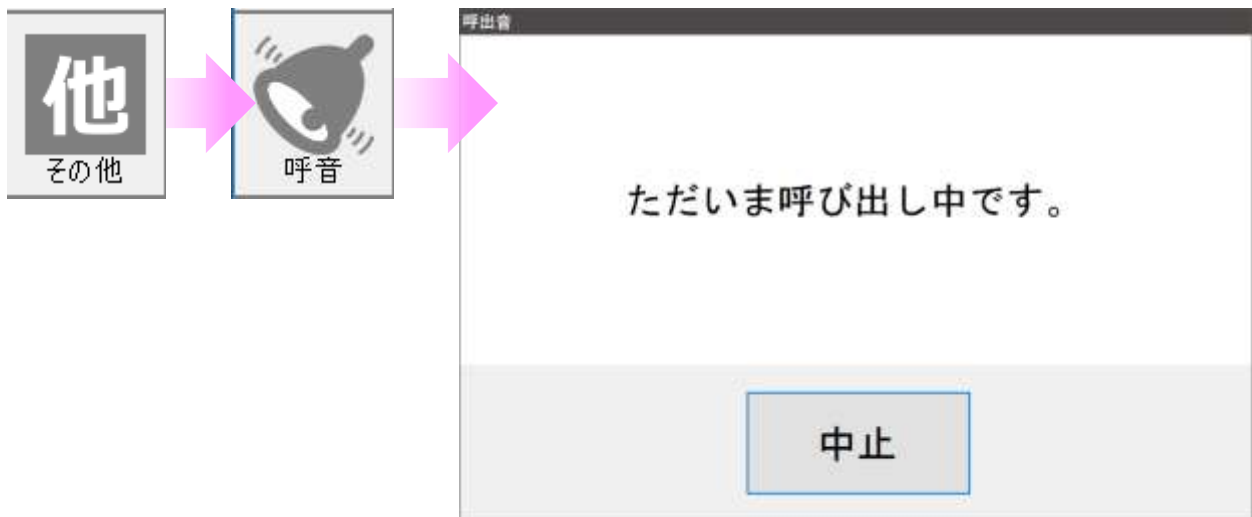
視線入力トップメニューから[その他]を注視(選択)して表示されたその他メニューから選択可能です。

[呼音]ボタンを注視(選択)すると、呼音を再生します。

呼音は伝の心呼音と同じものです。

呼音再生中は下記メッセージ画面を表示します。

メッセージ画面の中止ボタンを注視(選択)すると、メッセージ画面を閉じます。



### [設定]

視線入力トップメニューから[その他]を注視(選択)して表示されたその他メニューから選択可能です。

[設定]ボタンを注視(選択)すると、視線入力メニューを非表示にして、マウスクリックが左クリックモードに切り替わり、設定画面を起動します。

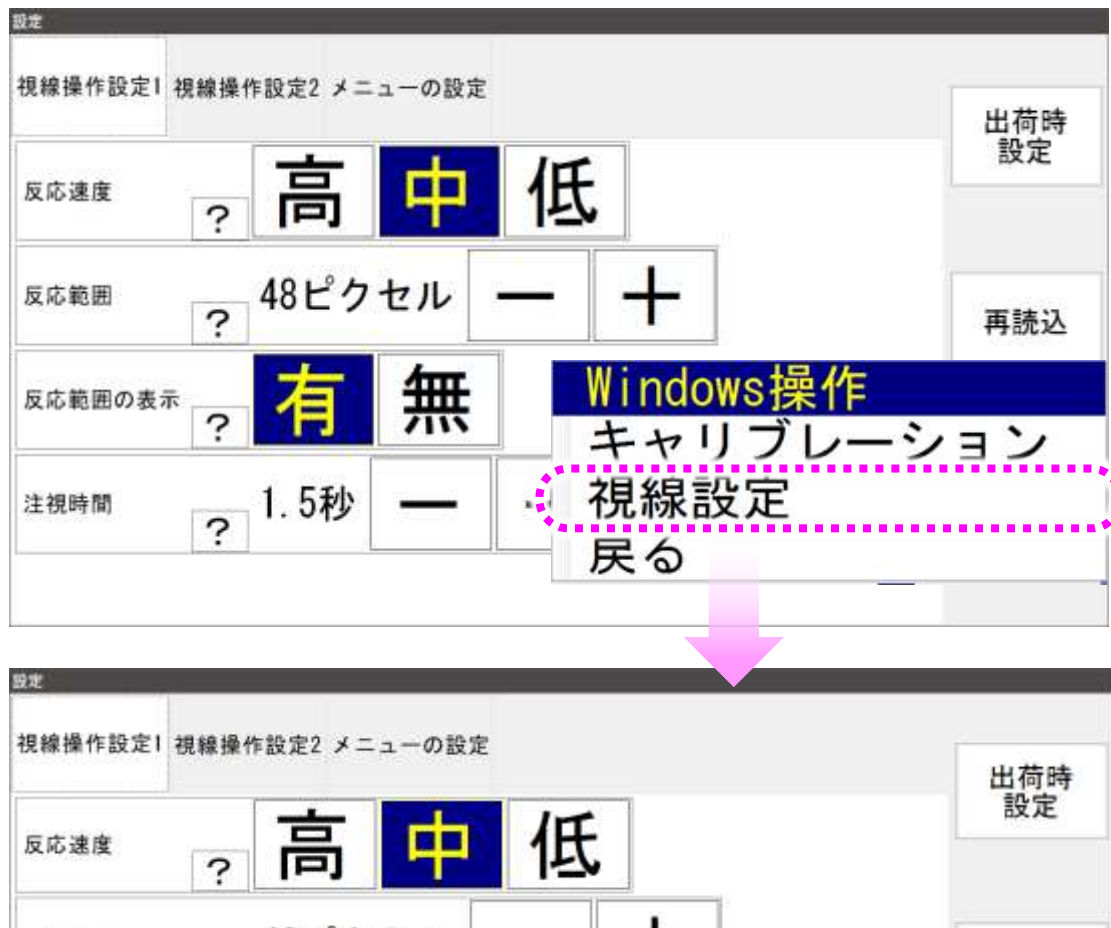
設定画面の詳細は 48 ページの「**■**視線入力の設定」を参照ください。

## ■視線入力の設定

視線入力トップメニューから[その他]→[設定]の順に注視(選択)すると、視線入力の設定画面が表示されます。このとき、視線入力メニューは非表示、マウスクリックは左クリックモードに切り替わります。



また、伝の心のメインメニューから[応用操作]→[視線設定]からも、視線入力の設定画面を表示することができます。





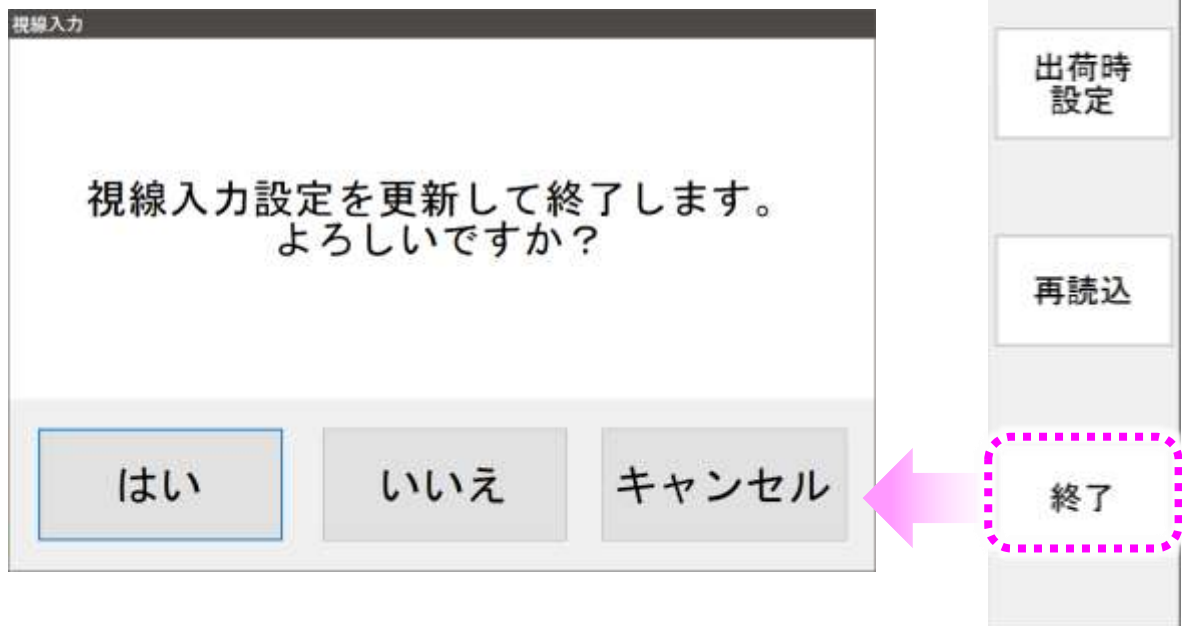
### ○終了

設定後は、設定画面の終了ボタンを注視(選択)すると、下記画面が表示されるので、はいボタンを注視(選択)すると設定を更新して終了します。

いいえボタンを注視(選択)すると設定を元に戻して終了します。

終了後は、視線入力のその他メニューに戻ります。

キャンセルボタンを注視(選択)すると、視線入力の設定画面に戻ります。

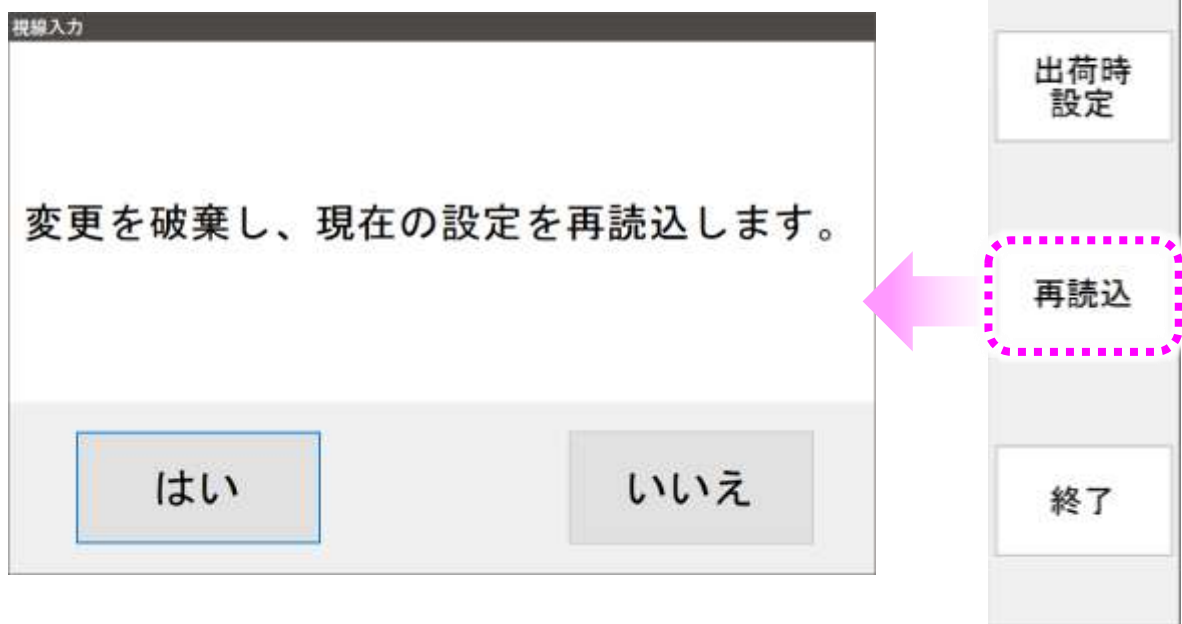


### ○再読込

再読込ボタンを注視(選択)すると、下記画面が表示されるので、

はいボタンを注視(選択)すると、現在の設定を表示して視線入力の設定画面に戻ります。

いいえボタンを注視(選択)すると、視線入力の設定画面に戻ります。

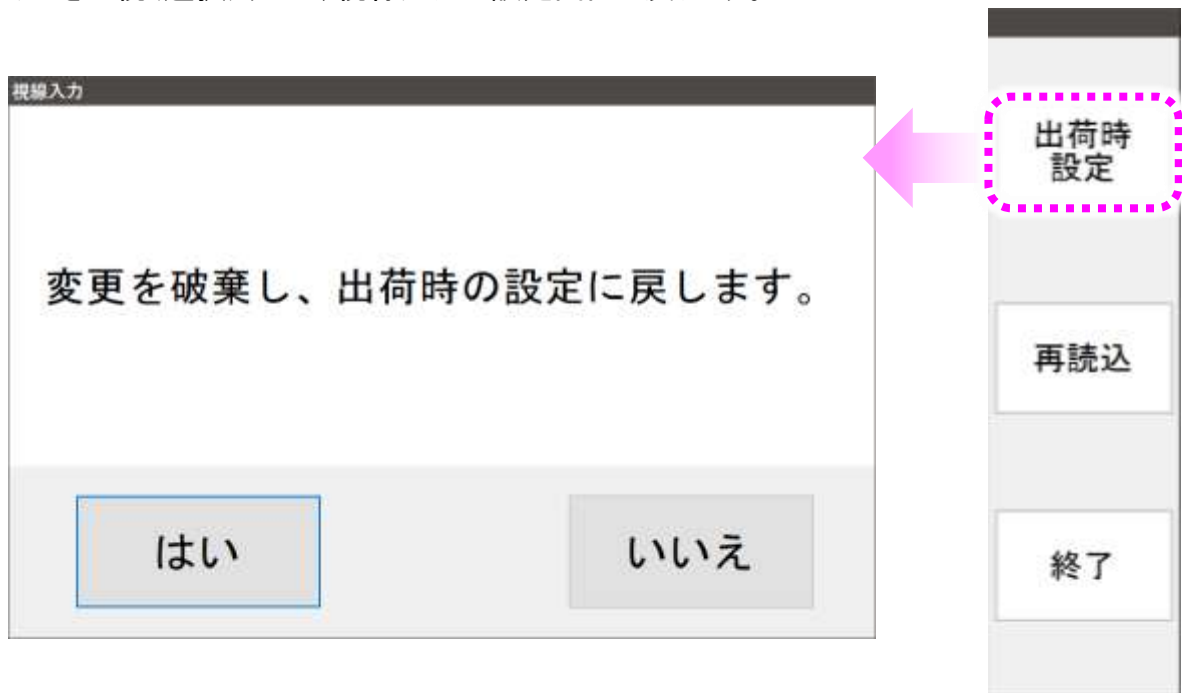


## ○出荷時設定

出荷時設定ボタンを注視(選択)すると、下記画面が表示されるので、

はいボタンを注視(選択)すると、出荷時の設定を表示して視線入力の設定画面に戻ります。

いいえボタンを注視(選択)すると、視線入力の設定画面に戻ります。



## 視線のマウス追従速度（反応速度）

視線を向けた位置に、マウスカーソルが移動を始める早さを設定できます。  
「視線操作設定 1」のページの「反応速度」で設定します。

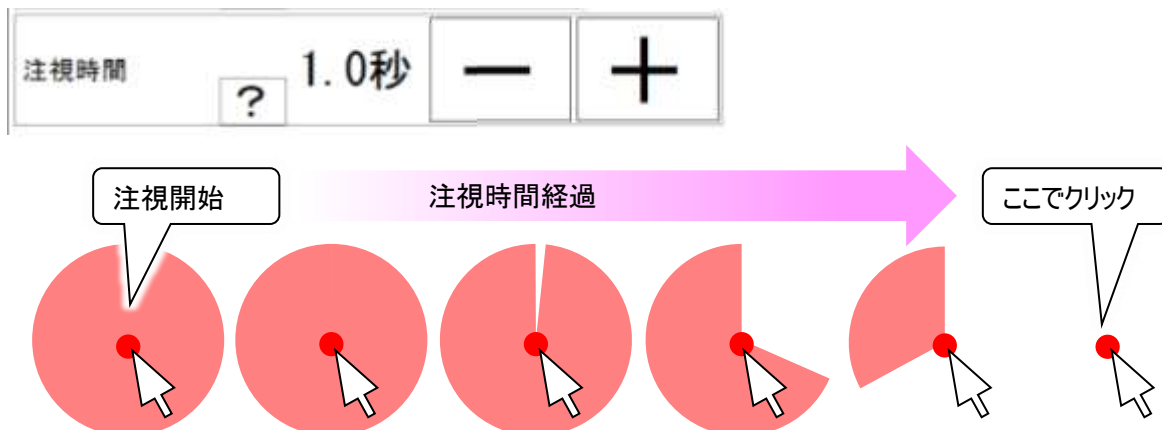
- 高**: 出荷時の設定に対して、視線の位置へのマウス追従速度が速くなります。
- 中**: 出荷時の設定です。
- 低**: 出荷時の設定に対して、視線の位置にマウスカーソルが遅れて追従するようになります。



## マウスクリックまでの時間（注視時間）

視線を向けた位置を注視してからマウスクリックが行われるまでの時間です。  
「視線操作設定 1」のページの「注視時間」で設定します。  
0.5～3.0 秒まで変更可能です。（出荷時の設定は 1.0 秒です。）

- +**: 注視時間を 0.1 秒プラス(遅く)します。
- : 注視時間を 0.1 秒マイナス(早く)します。



## マウスカースルの周りの円の大きさ（反応範囲）と表示の有無（反応範囲の表示）

マウスカースルの周りに円を表示可能です。（出荷時は表示されています。）

この円の範囲の中で視線を動かしても、マウスカースルは追従しません。（マウス追従の無効範囲）

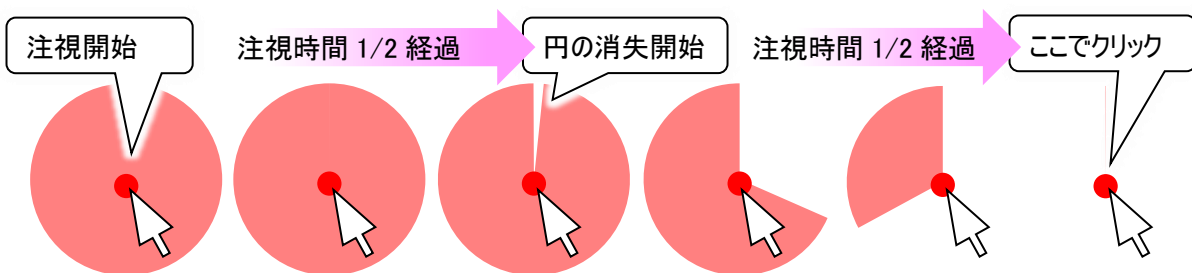
「視線操作設定 1」のページの「反応範囲の表示」で円の表示の有無、「反応範囲」で円の大きさ（半径）を指定します。

「反応範囲」は 24～96 ピクセルの範囲で 8 ピクセル毎に変更可能です。（出荷時は 48 ピクセルです。）

※円の表示の有無の関わらず、「反応範囲」の設定は有効です。



「反応範囲の表示」を「有」に設定した場合、マウスクリックが行われる時に、注視時間の半分が過ぎると円の表示が時計回りに消えていき、円が消えた時にクリック動作が行われるので、マウスクリックが視覚的に分かりやすくなります。



マウスクリック後は、円が再表示されます。

## マウスマウスの周りの円の色（反応範囲の色）

「反応範囲の表示」を「有」に設定した場合、円の色を変更することが可能です。（出荷時は「赤」です。）  
「視線操作設定 2」のページの「反応範囲の色」で設定します。



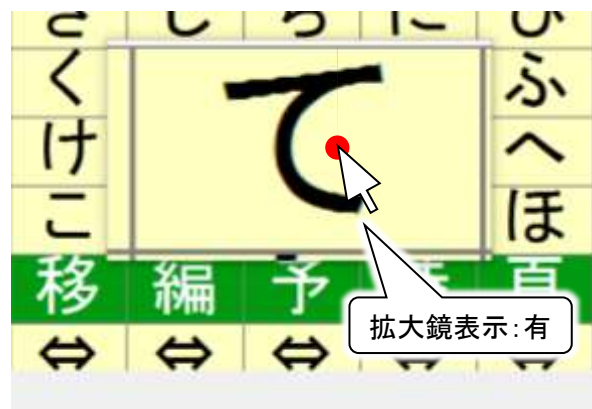
## マウスマウスの近くの拡大表示（拡大鏡表示）

操作対象が小さくて注視しづらい場合は、拡大鏡を表示してマウスマウスの付近を拡大表示させることも可能です。

「視線操作設定 2」のページの「拡大鏡表示」で設定します。（出荷時は表示されていません。）



「拡大鏡表示」を「有」に設定すると、OS 標準でインストールされている拡大鏡を表示します。下記のようにマウスマウスの付近を拡大表示します。



## Windows 操作(視線入力)メニューの設定

視線入力メニューの設定も可能です。「メニュー設定」のページで設定します。



### ○透明度

視線入力メニューの透明度を設定します。



### ○ON/OFF 注視時間

視線入力メニューの[ON/OFF] ボタンを注視して ON/OFF を切り替えるまでの時間を設定します。

※「視線操作設定 1」のページの「注視時間」で設定するマウスクリックまでの時間とは異なりますのでご注意ください。



### ○マウス操作注視時間

視線入力メニューの[左クリック]、[右クリック]、[ダブルクリック]、[ドラッグ]、[Ctrl+左クリック]、[Shift+左クリック]ボタンを注視してマウスクリックモードを切り替えるまでの時間を設定します。

※「視線操作設定 1」のページの「注視時間」で設定するマウスクリックまでの時間とは異なりますのでご注意ください。



### ○その他注視時間

視線入力メニューの ON/OFF、マウス操作系ボタン以外のボタンに対して、ボタンを注視してマウスクリックモードを切り替えるまでの時間を設定します。

※「視線操作設定 1」のページの「注視時間」で設定するマウスクリックまでの時間とは異なりますのでご注意ください。



## ガイド機能について

視線入力の設定画面では、各設定項目に対して説明を表示するガイド機能があります。

各項目の項目名表記エリアを注視すると、右側に説明画面が表示されます。

下記は「拡大鏡表示」を注視したときの一例です。



説明画面を注視している間は、説明画面は表示されます。視線を説明画面から外して「注意時間」経過すると、自動的に説明画面は閉じます。

※ここでの「注視時間」は「視線操作設定 1」のページの「注視時間」で設定する時間です。

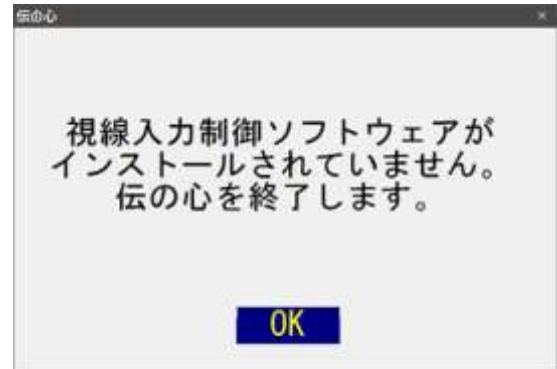
## ■こんな時には

メッセージが表示されて「伝の心」が起動しない

○メッセージの内容が、「視線入力制御ソフトウェアがインストールされていません。伝の心を終了します。」の場合

⇒視線入力オプションを有効にするためのソフトウェアがインストールされていません。

4 ページの「コアソフトウェアのインストール」を参照して、ソフトウェアをインストールしてください。

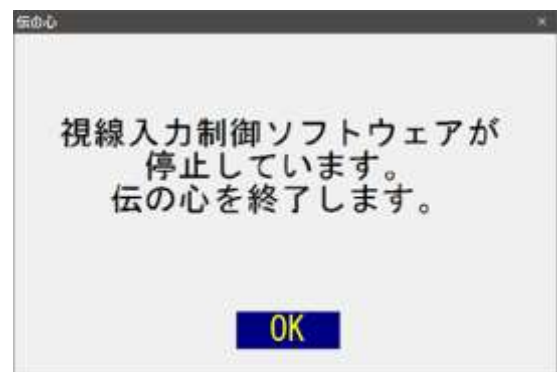


○メッセージの内容が、「視線入力制御ソフトウェアが停止しています。伝の心を終了します。」の場合

⇒視線入力オプションを有効にするためのソフトウェアが起動していません。

視線入力制御ソフトウェアは、インストールすると、「伝の心」の起動と同時に起動する設定となっていますが、何らかの原因で起動が遅れている場合があります。

**OK** ボタンをマウスでクリックしてメッセージを閉じた後、暫く待ってからデスクトップ画面の [伝の心] アイコンをダブルクリックして、「伝の心」を起動してください。



○メッセージの内容が、「視線入力デバイスが接続されていません。伝の心を終了します。」の場合

⇒トビーPCEye Mini が「伝の心」に接続されていません。

7 ページの「トビーPCEye Mini の設置を行います」や、21 ページの「**■**tobii アイトラッキングツールについて」を参照して、トビーPCEye Mini の接続を確認してください。

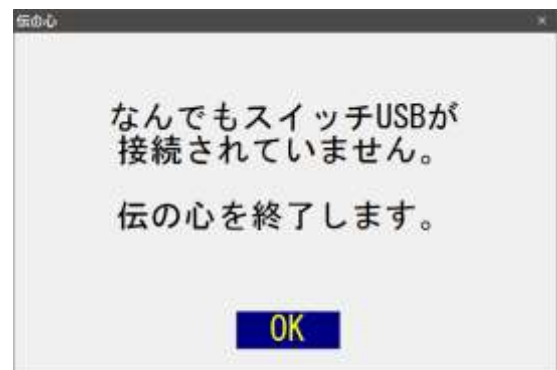


○メッセージの内容が、「なんでもスイッチ USB が接続されていません。伝の心を終了します。」または「なんでもワイヤレスが接続されていません。伝の心を終了します。」の場合

⇒視線入力有効で、なんでもスイッチを併用する設定もしくは、視線入力無効の設定になっていません。

更にその状態でなんでもスイッチ USB またはなんでもワイヤレスが接続されていません。

視線入力の設定が違う場合は 17 ページの「伝





の心で使用できるようにします」を参照して、「視線入力有効(なんでもスイッチを併用しない)」設定に切り替えてください

なんでもスイッチを使用する設定の場合は、なんでもスイッチ USB またはなんでもワイヤレスの接続を確認してください。

## キャリブレーションを行ったら、動作不能になった

キャリブレーションの更新は、CPU 負荷が非常に高くなるため、OS の状態によっては視線制御ソフトが停止してしまうことがあります。

○伝の心起動時のキャリブレーション画面からキャリブレーションの更新を行った場合

⇒

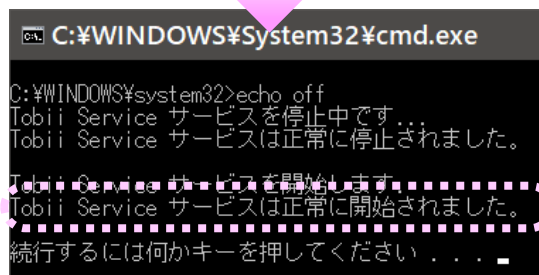
- ① キャリブレーション画面の右上の×をマウスでクリックして、まずキャリブレーション画面を閉じます。
- ② 4 ページの「コアソフトウェアのインストール」や 17 ページの「伝の心で使用できるようにします」を参照して「視線入力」フォルダーを開きます。
- ③ 「Service の再起動」を右クリックして、表示されたメニューから「管理者として実行」をクリックします。
- ④ 「Tobii Service サービスを停止中です...」メッセージが表示されます。
- ⑤ 「Tobii Service サービスは正常に開始されました」と表示されるまで待ちます。
- ⑥ メッセージ画面の右上の×をマウスでクリックして、メッセージ画面を閉じます。
- ⑦ 23 ページの「ユーザープロフィール設定(キャリブレーション)」を参照して再度キャリブレーションを行います。
- ⑧ キャリブレーションが終了したら、伝の心が起動します。

○伝の心のメインメニューから「キャリブレーション」を選択してキャリブレーションの更新を行った場合

⇒前項の①～⑧と同様の操作を行ってください。

ただし、②を行う際に伝の心のメインメニューが表示されていますので、メインメニューの右上の□ボタンをクリックして、伝の心を最小化してください。

また、⑧でキャリブレーションが終了した際は、②で伝の心を最小化している場合、タスクバーの伝の心アイコンをクリックして伝の心画面を表示させてください。



## なんでもスイッチのみで「伝の心」の操作がしたい

視線入力オプションでの「伝の心」操作をなんでもスイッチでの操作に戻すことができます。

(1) 17 ページの「伝の心で使用できるようにします」を参照して、下記の画面を表示します。



(2) **視線入力無効** ボタンをクリックしてください。なんでもスイッチのみでの操作に切り替わります。

## ■ サポート

トビーPCEye Mini やコアソフトに関するお問い合わせは、以下までご連絡ください。

[株式会社クレアクト お問い合わせ窓口](#)

「伝の心」に関するお問い合わせは、「伝の心」をご購入された販売店にご連絡ください。